－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	アパレル企画論						
担当教員	徳山　孝子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	実際に商品企画をするとともにファッションビジネスの流れを学び、商品企画力を身につける。
授業の概要	アパレルの商品企画は、消費生活者のニーズにあった商品で、新しいスタイルデザインをどのようにして市場に出していくかという事である。この商品価値は、実用面での機能性、好みや流行といった情報性、消費者の投資とその経済性の関数であるといえる。そのような複雑な要素からなるアパレル企画商品の原点は、消費生活者の身の回りに求められるべきものである。今日のような豊かな生活では、何が本当に役立ち、生活を豊かにしてくるのか、原点から改めてアパレル企画とは何かを理解する必要がある。
到達目標	企画の発想から資料の収集・調査・分析・構想・立案プロモーションに至るまでのプロセスを理解し、企画力を身についた。
授業計画	１．　商品企画および流行とは ２．　ライフスタイルとファッション；マズローの7段階説の説明、AIDMAN理論の説明、購買行動プロセスなど） ３．　ライフスタイルと自己分析；パーソナル・カラー，ワードローブのコーディネート ４．　ファッション業界の構造と専門職 ５．　ファッション商品計画 ６．　ファッション情報収集 ７．　企画技法の説明 ８．　K.J.法の演習 ９．　物のデザインや人の感性を分類 １０．　ファッションの感覚的な分類をマスターする １１．　ファッショントレンドのテーマとは １２．　ファッショントレンド情報の分析 １３．　ファッションディレクションを作成する １４．　ファッション表現で自己プレゼンテーション １５．　ライフスタイルとファッションデザイナー
授業外における学習（準備学習の内容）	授業内にて説明する。
授業方法	講義と演習形式で進める。演習は、プリントを配布する。
評価基準と評価方法	提出物100%
教科書	「新配色カード199ａ」　日本色研事業株式会社 プリントを配布する。
参考書	参考書：授業内にて紹介する。

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	アパレル生産実習（被服実習）						
担当教員	笹崎　綾野						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜1～2	配当学年	3	単位数	1.0

授業のテーマ	衣服製作技術の習得、アパレル生産工程の理解
授業の概要	アパレル生産工程を理解し、設計、縫製準備、縫製、仕上げの一連の作業工程について実践をとおして確認しする。実習では、平面製図法(手書き、CAD)により工業用型紙を作成し、プレタポルテ方式で縫製して各自作品を仕上げる。タイトスカート、ブラウスなどの基本アイテムを製作し、作業工程とともに衣服製作技法を習得する。
到達目標	アパレル生産工程の一連の流れを把握し、衣服設計パターン・型紙・裁断・縫製などの工業用衣服製作法の基礎を取得できる。
授業計画	１．オリエンテーション「方針・進め方の説明」： タイトスカート(第2回目～第7回目)とブラウス(第8回目～第15回目)の授業内容について説明する。マルチン計測法による採寸方法を学び、各自の採寸表を作成する(JIS規格成人女子のサイズ表で、各自の寸法を確認する)。各自の寸法を基に、CADで上半身原型製図を作成する。まつり縫いなど衣服の始末について学ぶ。 ２．タイトスカート「製図①」： 平面製図法を用い、各自の体型にあったタイトスカートを製図する。 ３．タイトスカート「製図②・工業用パターン」： タイトスカートの製図を完成させる。工業用パターン(型紙)を作成し、量産の方法を理解する。 ４．タイトスカート「サンプル裁断・印し付け」： 布の地直しを行う。トワルを型紙通りに裁断し、印を付ける。 ５．タイトスカート「縫製①」： 縫代にロックミシンをかけて本縫いの準備をする。ウエストダーツを縫い、前スカートと後スカートを縫い合わせ組み立てる。 ６．タイトスカート「縫製②」： ベルトを作り、ウエスト部分につける。 ７．タイトスカート「仕上げ」： ホック付け、裾にロックミシンをかけ、まつる。アイロンがけなどの仕上げ作業をする。 ８．ブラウス「製図①」： 上半身原型製図を基に、ブラウス用スローパーを作る。平面製図法でブラウス(前身頃)を製図する。 ９．ブラウス「製図②」： 平面製図法でブラウス(後身頃)を製図する。 １０．ブラウス「裁断」： 布の地直しをする。型紙どおりに布を裁断し、印を付ける。 １１．ブラウス「仮縫い・補正」： ブラウスを仮縫いし、各自の体型にあわせて補正する。 １２．ブラウス「縫製①・身頃」： 縫代にロックミシンをかけて本縫いの準備をする。ブラウスの身頃を縫い合わせ、裾を始末する。 １３．ブラウス「縫製②・見返し付け」： 見返しに接着芯をはり、身頃につける。袖作りの準備をする。 １４．ブラウス「縫製③・袖付け」： 袖を作り、身頃に袖をつける。縫代の始末をする。 １５．まとめ、ブラウス「仕上げ」： 上前にボタンホールを作り、ボタン付けする。アイロンをかけ、仕上げる。（講評・評価）
授業外における学習（準備学習の内容）	授業後学習：授業の内容をもう一度見直し、衣服製作工程を整理し、まとめる。 授業内で製作課題が終わらない学生は、次の授業までに終わらせる。

授業方法	教科書、配布プリント、作品サンプル、スライド等で実習内容・手順を説明し、実習(製作)に入る。
評価基準と評価方法	作品提出（タイトスカート50%・ブラウス50%)100%
教科書	中屋典子、三吉満智子　監修　『服装造形学　技術編Ⅰ』　文化出版局　2007年　ISBN978-4-579-10859-6
参考書	佐藤貴美枝　『アイテム別部分縫い集vol.1　スカート＆パンツ編』　文化出版局　2005年 佐藤貴美枝　『アイテム別部分縫い集vol.2　ブラウス＆ワンピース編』　文化出版局　2006年

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	アパレルデザイン論						
担当教員	徳山　孝子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	色・形・素材などからアパレルデザインの基礎を学ぶ
授業の概要	ファッション領域の科目全体を概観するための必修科目である。他のデザイン分野とは異なる独自性をもって発展してきたファッションデザインの近代以降の歴史的意味を振り返り、現代ファッションの範囲、他分野への拡がりと融合について理解する。また、新しさへの欲求、国境を越えた流行、スタイルと風俗などのファッションの性質、および生活文化としてのファッションを踏まえ、アパレルファッションデザインの意味、形態、色彩、質感と美的性質、目的、発想と表現、ファッション産業の仕組みなどについての基礎的知識を習得する。
到達目標	デザインの本質であるフォームとカラーを中心に、衣服としてのデザインをより効果的に表すためのテキスタイルとの関係、および人の体形や個性との関連を理解した。
授業計画	１．　オリエンテーション（課題テーマ、方針・進め方の説明）：アパレルデザインとは ２．　服飾デザイン：ファッションとは何か ３．　ファッションデザインと色彩の基礎 ４．　色の３属性（日本色研配色体系（P.C.C.S.）、マンセル色体系、オストワルト色体系）を学ぶ。 ５．　配色の論理：主にトーンの配色を説明する。 ６．　流行色と基調色 ７．　色彩計画と中間試験 ８．　ファッションデザインと造形要素：点・線・形など ９．　服飾の形体：面と立体 １０．　秩序の理論：統一と変化、アクセントとポイント、ハーモニーとコントラスト、バランスとシンメトリー、リズムとプロポーションなど １１．　服飾の歴史：洋服の形、色などの歴史 １２．　ファッションデザインと文様・素材感 １３．　衣服の基本構造と構造線,服飾線 １４．　ファッションの美的統一 １５．　ファッションデザインの発想と表現、最後に試験。
授業外における学習（準備学習の内容）	授業内にて説明する。
授業方法	プリントを配布する。そのプリントに添って講義する中で、画像を使って確認をしながら進める。
評価基準と評価方法	試験70%、提出物30%
教科書	日本衣料管理協会刊行委員会『アパレルデザインの基礎』（社団法人日本衣料管理協会）
参考書	授業中に紹介。

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	応用調理実習						
担当教員	大橋　陽子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜4～5	配当学年	3	単位数	1.0

授業のテーマ	調理を通して、食を科学的、人文科学的、社会科学的に考える
授業の概要	快適な食卓の環境を整えるため、日本および外国の食文化・調理文化を背景とした料理の成り立ちとその料理形式を理解し、日常食、供応食、行事食などの目的も理解する。そして、ライフステージにあわせた献立をたてる力を養う。献立作成において、健康面、文化的背景、嗜好性、経済性、能率性、季節性を考慮することの重要性を理解する。実習を通して、食品の選別、調理技術、食事の対象に見合う食品の質と量、組合せの実際について学ぶとともに、テーブルセッティング、食卓作法について学ぶ。
到達目標	食品表示について理解し、基礎調理実習で会得した調理法で、新たな食品（特に魚介類）の処理法を習得する。調理の楽しさを知り、これからの健康づくりに寄与できるようになります。また、内外の食文化を知ることは、グローバルな社会に入る第一歩となります。
授業計画	第1回　オリエンテーション 第2回　基本的栄養学　　食品に含まれる栄養素とその体内での働き 第3回　食品表示　　消費期限と賞味期限 第4回　和風料理(1)　　煮物 第5回　中華風料理(1)　　揚物 第6回　洋風料理(1)　　三枚おろし 第7回　食卓作法　　和洋中の食具、配膳、作法の違い 第8回　筆記テスト 第9回　和風料理(2)　　寿司 第10回 中華風料理(2)　　蒸し物 第11回 洋風料理(2)　　閉鎖式加熱(オーブン) 第12回 エスニック料理 第13回 発酵 第14回 製菓 第15回 実技テスト・講評およびまとめ 第1回目の授業(オリエンテーション）で、実習費（8,000円）を徴収する。 行事等により順序が変更する場合がある。変更の場合は事前に連絡します。 また、献立内容は種々の条件により変更することがあります。
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業計画に従って、授業までに教科書の該当するところを読む。 授業後学習：実習の要点を課題にだすので、簡潔に、見やすくまとめる。
授業方法	実習と講義と試験
評価基準と評価方法	テスト（筆記テストと実技テスト）50% 提出物　20% 実習態度（服装を含む学習態度、班での協力態度）30% 提出期限等時間を守らない場合は、減点対象にする。
教科書	「新版　フードコーディネート論　第2版」日本フードスペシャリスト協会編　建帛社　ISBN 978-4-7679-0295-1
参考書	「あすの健康と調理」　三輪里子監修　アイ・ケイ・コーポレーション　ISDN:978-4-887492-222-4 C3077

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	香りの科学						
担当教員	鳥居　さくら						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	香りの心理学的効用
授業の概要	人が生活していくうえでにおいは身の周りにあふれています。この授業では、香りの、鎮静・覚醒作用、ストレスや睡眠に対する影響、疲労度の軽減、免疫に対する影響、認知や記憶に対する影響など、数々の心理学的効用について実証されたことを具体例を挙げ解説していきます。また、精油の種類や使い方について、実際に香りを使いながら学んでいきます。
到達目標	香りの心理学的効用について理解できるようになります。また、精油の種類や使い方についても知ることができます。
授業計画	1.オリエンテーション 2.香りの歴史 3.嗅覚の仕組み 4.香りの鎮静覚醒作用 5.香りとストレス 6.香りと睡眠 7.香りと疲労 8.香りと免疫 9.香りと認知 10.香りと記憶 11.嗅覚の個人差 12.精油の作用 13.精油の使い方 14.精油の種類 15.まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：日常でのにおいを意識し、その感覚を言葉で表現できるようになりましょう。 授業後学習：香りを実際の生活の中でどのように生かすことができるか、毎回の授業の内容を思い出して考えてください。
授業方法	主に講義形式です。
評価基準と評価方法	授業態度(20%)、試験レポート(80%)
教科書	
参考書	

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	家庭電気・機械						
担当教員	古家　伸一						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	家庭で利用される電気機器を通して電気・機械を知る
授業の概要	家庭で使用される機器は科学技術の発展と共に高度化されてきました。そしてこれら多種多様な家電機器を私たちは利用し、快適な生活を営んでいます。一般の家電機器にコンピュータを搭載することに何のふしぎもなくなり、最近ではこれら家電機器間がネットワークで結ばれようとしています。 この講義では、普段何気なく利用している家電機器の一般的な仕組みを理解し、それらを通して電気や機械についての基本的な知識を学習します。また、情報と結びつく家電機器についても考えていきます。
到達目標	普段利用している家庭電気機器等の仕組みを理解し、電気や機械について興味がわくようになる。
授業計画	第 1回：授業概要 第 2回：国際単位系 第 3回：電気用図記号 第 4回：電気、その発生から消費まで 第 5回：電池 第 6回：パワーエレクトロニクス 第 7回：モータ 第 8回：冷暖房 第 9回：誘導加熱 第10回：照明 第11回：音楽、映像 第12回：放送、通信、電話 第13回：ネットワーク 第14回：コンピュータ 第15回：家電製品の今後 なお、授業の進行状況により内容が前後したり変更になることがあります。詳細は授業用web page上でフォローしますので詳しくはそちらを見てください。
授業外における学習（準備学習の内容）	講義では、家庭にある電気機器や身の回りにある電気設備等について話題にするので、登下校の途中や自宅で実物を見て確認してほしい。
授業方法	講義
評価基準と評価方法	平常点（小テストを含む）50%、提出物 50%
教科書	教科書の指定はありません。必要に応じてプリントや授業用web page上のオンラインテキストを使用します。
参考書	授業中および授業用web page上で紹介します。

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	官能評価演習						
担当教員	武智　多与理						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜4～5	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	「食」に関する官能評価法の演習
授業の概要	「食」に関連した官能評価や食品の識別に関する基礎的な心理学、行動科学、統計学などの手法について解説する。また、実際の食品の品質保証、食味などについての簡単な食品学に関する内容も含む。
到達目標	官能評価とは、人間の5感を測定器具として、食品のおいしさや品質を客観的に評価する方法である。数種類の官能評価法について理論的に理解し演習することで、実生活に応用できる力を身につけることを目標とする。
授業計画	第1回　はじめに 第2回　官能評価とは？ 第3回　食品の品質を調べる方法 第4回　ヒトの5感についてその仕組みおよび働き（視覚と聴覚） 第5回　ヒトの5感についてその仕組みおよび働き（味覚と嗅覚） 第6回　ヒトの5感についてその仕組みおよび働き（体性感覚と共感覚） 第7回　感覚の働きを調べる方法 第8回　食物の嗜好や識別に関する調査・実験手法 第9回　食品嗜好・識別の実習 第10回　二点識別法やリカート法、マグニチュード推定法などの官能評価の方法 第11回　統計学的な理論や実際の統計処理の手法 第12回　官能評価の結果と機器測定による化学・物理学的評価の結果を統合する方法 第13回　実際の食物(グルテン、果実、肉・肉製品、乳、卵など)を用いた識別の方法 第14回　味利きの実際（お茶やワイン等の専門家の方にゲストスピーカーとして来ていただき、実際の味利きについて教えていただく） 第15回　まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前：授業計画に従って、教科書の該当する箇所を読んでおくこと 授業後：演習実施後は、各回レポートの提出を求める。
授業方法	実習形式をメインとする。毎回授業開始時に講義形式で教科書に基づいた説明をおこなう。
評価基準と評価方法	レポート50%，出席状況（欠席は減点）50%
教科書	「新版食品の官能評価・鑑別演習」（社）フードスペシャリスト協会編
参考書	

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	企業研究（インターンシップ）						
担当教員	青谷　実知代						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	社会へ出てからの必要最低限の知識やマナーを習得しよう
授業の概要	この授業は、社会に出て働くということについて、各種業界や各職種の実態や、職場のルール、マナーなどを理解するための講義と、企業やその他の組織において実際に研修を行う実習とからなる。企業やその他の組織における業務体験（インターンシップ）によって、企業活動や組織活動の実際を自分自身の感覚で理解し、社会人としての自覚を育てる。 研修前には事前講義を行い必要最低限の知識やマナーを習得する。さらに研修後には研修によって学んだことをレポートとして提出する。この授業を通して、自らの将来やライフプランを考えることを目的とする。 社会人としての心構えを学び、体験を通して豊かな自己表現力を身につけ、自分に適した職業選択ができることや職業生活設計が立てられるようになることを目指す。 実社会での就業体験を通して社会認識を深めるために、仕事の基本やビジネスマナーを事前に学習し、現場で体験する。そして、実習中は毎日体験・経験したことを記録し、企業の方とコミュニケーションを図りながら社会に出るまでに何が必要であり、大事なことは何かを考える。そして実習後は報告会を通して、自らの職業生活設計について考えてみることを目的とする。
到達目標	学生の間に社会人のマナーを身につけること。
授業計画	第１回. 実習先の事業内容の確認 第２回. 実習先への提出書類の作成 第３回. 社会人としての心構え―仕事の基本― 第４回. ビジネス･マナーと話し方のマナー 第５回. 「実習先について」「自己紹介の仕方」、学生の発表 第６回. 電話応対のマナー、手紙の書き方 第７回. 企業での現地実習① 第８回. 企業での現地実習② 第９回. 企業での現地実習③ 第10回. 企業での現地実習④ 第11回. 企業での現地実習⑤ 第12回. 企業での現地実習⑥ 第13回. 企業での現地実習⑦ 第14回. 実習報告のまとめ 第15回. 実習報告プレゼンテーション
授業外における学習（準備学習の内容）	企業での現地実習があります（都市生活の実習先に研修）
授業方法	集中講義
評価基準と評価方法	レポート（20%）、プレゼンテーション（20%）、学習態度（実習先の研修も含む）と授業参加姿勢など総合的評価（60%）
教科書	プリント配布
参考書	随時紹介する

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	基礎栄養学						
担当教員	武智　多与理						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	栄養学及び応用（ライフステージ）栄養学の基礎
授業の概要	食物から摂取される各栄養素は身体の構成成分、細胞および臓器間での代謝に利用され、生命維持、体温保持、成長発育、活動、生殖に不可欠な役割を担う。基礎栄養学では各栄養素の種類と特徴およびその生理作用、そして生体における代謝について学ぶ。さらに、主要なライフステージの応用栄養学へと発展させる。
到達目標	前半部分では、5大栄養素を中心とした栄養学の基礎知識を、後半部分では、ライフステージ栄養の基礎知識を講義する。食生活に栄養の知識を活かし、健康の保持・増進、疾病の予防・治療が図れるよう、栄養に関する基本的事項を理解する。
授業計画	第1回　健康と栄養：　健康概念と栄養・食生活 第2回　食事と栄養物質(1)：　炭水化物の栄養 第3回　食事と栄養物質(2)：　脂質の栄養 第4回　食事と栄養物質(3)：　タンパク質の栄養 第5回　食事と栄養物質(41)：　無機質の栄養 第6回　食事と栄養物質(5)：　ビタミンの栄養 第7回　エネルギー代謝 第8回　食品の機能性と栄養(1)：　食物繊維 第9回　食品の機能性と栄養(2)：　抗酸化物質 第10回　ライフステージと栄養(1)：　胎児・妊娠・授乳期 第11回　ライフステージと栄養(2)：　成長期・成人期・高齢期 第12回　生活習慣病と栄養(1)：　生活習慣病とは 第13回　生活習慣病と栄養(2)：　生活習慣病と食事 第14回　情報社会と健康：　栄養に関する情報 第15回　まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前：授業計画に従って、教科書の該当する箇所を読んでおく。 授業後：学んだことを復習し、要点をまとめておく。
授業方法	講義
評価基準と評価方法	授業態度10%、レポート20%、期末テスト70%
教科書	改訂　栄養と健康 日本フードスペシャリスト協会編 建帛社
参考書	

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	基礎演習						
担当教員	池田　清						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	4.0

授業のテーマ	本演習は、生活学科都市生活専攻の１年生が、大学で学ぶことに意義を自覚し、高校と異なる授業への円滑な移行と新に学ぶ「都市生活」に関する認識、洞察を深めるための基礎訓練を目的に開講されている。
授業の概要	コンピューターを用いた資料の収集の方法、レジュメの作成、発表技術など、大学で学びのための知識や技術を修得させ、さらに本専攻で学ぶ生活科学、生活行動、社会生活、社会システムの４つをキーワードとして、それぞれの手法を修得しながら「都市生活」の問題に接近する。これによって、本専攻へのより高い関心を促し必要なデータや資料の収集のため学外で授業を行うことがある。
到達目標	都市生活専攻へのより高い関心を持ち、自分のキャリア・デザインを１年生の段階から描くことができ、本専攻で学ぶための基礎知識と意欲を持つことが出来る。
授業計画	以下の内容をオムニバス形式で行う。 1. オリエンテーションとキャンパス探検 2. 図書館の使い方Ⅰ・新入生オリエンテーションの反省と来年度の計画 3. 図書館の使い方Ⅱ・大学での学び方 4. 文献資料収集・整理の方法 5. 資料の読み方 6. 引用・参考文献の書き方 7. レポートの構成 8. レポートの書き方Ⅰ 9. レポートの書き方Ⅱ 10. プレゼンテーションの仕方（自分の考えを他人に伝える） 11. プレゼンテーションの仕方（レジュメ作成） 12. プレゼンテーションの仕方（口頭発表・オーラル発表） 13. フィールドワークⅠ 14. フィールドワークⅡ 15. 夏休みの課題説明 16. 夏休みの課題報告 17. 夏休みの課題報告 18. ー29オムニバス形式の演習（表参照） LU①　LU②　LU③　LU④ 18-20回　池田　竹田　武智　鳥居 21-23回　竹田　武智　鳥居　池田 24-26回　武智　鳥居　池田　竹田 27-29回　鳥居　池田　竹田　武智 武智：生活科学：日常生活の中にあるモノをとらえる方法について、主に食物学的な視点から導入解説をする。 鳥居：生活行動：日常生活の中で行動をとらえる方法について、心理学的視点から導入的解説をする。 池田：社会システム：神戸というまちを題材に、都市を社会科学的に分析する方法について導入的解説をする。 竹田：社会生活：家族や生活様式を捕らえる方法について生活学的視点から導入的解説をする。 30後期のまとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	資料収集・フィールド・ワーク
授業方法	演習
評価基準と評価方法	授業中の課題（40%）、レポート（60%）などによる総合評価

教科書	
参考書	

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	基礎演習						
担当教員	竹田　美知						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	4.0

授業のテーマ	本演習は、生活学科都市生活専攻の１年生が、大学で学ぶことに意義を自覚し、高校と異なる授業への円滑な移行と新に学ぶ「都市生活」に関する認識、洞察を深めるための基礎訓練を目的に開講されている。
授業の概要	コンピューターを用いた資料の収集の方法、レジュメの作成、発表技術など、大学で学びのための知識や技術を修得させ、さらに本専攻で学ぶ生活科学、生活行動、社会生活、社会システムの４つをキーワードとして、それぞれの手法を修得しながら「都市生活」の問題に接近する。これによって、本専攻へのより高い関心を促し必要なデータや資料の収集のため学外で授業を行うことがある。
到達目標	都市生活専攻へのより高い関心を持ち、自分のキャリア・デザインを１年生の段階から描くことができ、本専攻で学ぶための基礎知識と意欲を持つことが出来る。
授業計画	以下の内容をオムニバス形式で行う。 1. オリエンテーションとキャンパス探検 2. 図書館の使い方Ⅰ・新入生オリエンテーションの反省と来年度の計画 3. 図書館の使い方Ⅱ・大学での学び方 4. 文献資料収集・整理の方法 5. 資料の読み方 6. 引用・参考文献の書き方 7. レポートの構成 8. レポートの書き方Ⅰ 9. レポートの書き方Ⅱ 10. プレゼンテーションの仕方（自分の考えを他人に伝える） 11. プレゼンテーションの仕方（レジュメ作成） 12. プレゼンテーションの仕方（口頭発表・オーラル発表） 13. フィールドワークⅠ 14. フィールドワークⅡ 15. 夏休みの課題説明 16. 夏休みの課題報告 17. 夏休みの課題報告 18. ー29オムニバス形式の演習（表参照） LU①　LU②　LU③　LU④ 18-20回　池田　竹田　武智　鳥居 21-23回　竹田　武智　鳥居　池田 24-26回　武智　鳥居　池田　竹田 27-29回　鳥居　池田　竹田　武智 武智：生活科学：日常生活の中にあるモノをとらえる方法について、主に食物学的な視点から導入解説をする。 鳥居：生活行動：日常生活の中で行動をとらえる方法について、心理学的視点から導入的解説をする。 池田：社会システム：神戸というまちを題材に、都市を社会科学的に分析する方法について導入的解説をする。 竹田：社会生活：家族や生活様式を捕らえる方法について生活学的視点から導入的解説をする。 30後期のまとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	資料収集・フィールド・ワーク
授業方法	演習
評価基準と評価方法	授業中の課題（40%）、レポート（60%）などによる総合評価

教科書	
参考書	

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	基礎演習						
担当教員	武智　多与理						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	4.0

授業のテーマ	本演習は、生活学科都市生活専攻の１年生が、大学で学ぶことに意義を自覚し、高校と異なる授業への円滑な移行と新に学ぶ「都市生活」に関する認識、洞察を深めるための基礎訓練を目的に開講されている。
授業の概要	コンピューターを用いた資料の収集の方法、レジュメの作成、発表技術など、大学で学びのための知識や技術を修得させ、さらに本専攻で学ぶ生活科学、生活行動、社会生活、社会システムの４つをキーワードとして、それぞれの手法を修得しながら「都市生活」の問題に接近する。これによって、本専攻へのより高い関心を促し必要なデータや資料の収集のため学外で授業を行うことがある。
到達目標	都市生活専攻へのより高い関心を持ち、自分のキャリア・デザインを１年生の段階から描くことができ、本専攻で学ぶための基礎知識と意欲を持つことが出来る。
授業計画	以下の内容をオムニバス形式で行う。 1. オリエンテーションとキャンパス探検 2. 図書館の使い方Ⅰ・新入生オリエンテーションの反省と来年度の計画 3. 図書館の使い方Ⅱ・大学での学び方 4. 文献資料収集・整理の方法 5. 資料の読み方 6. 引用・参考文献の書き方 7. レポートの構成 8. レポートの書き方Ⅰ 9. レポートの書き方Ⅱ 10. プレゼンテーションの仕方（自分の考えを他人に伝える） 11. プレゼンテーションの仕方（レジュメ作成） 12. プレゼンテーションの仕方（口頭発表・オーラル発表） 13. フィールドワークⅠ 14. フィールドワークⅡ 15. 夏休みの課題説明 16. 夏休みの課題報告 17. 夏休みの課題報告 18. ー29オムニバス形式の演習（表参照） LU①　LU②　LU③　LU④ 18-20回　池田　竹田　武智　鳥居 21-23回　竹田　武智　鳥居　池田 24-26回　武智　鳥居　池田　竹田 27-29回　鳥居　池田　竹田　武智 武智：生活科学：日常生活の中にあるモノをとらえる方法について、主に食物学的な視点から導入解説をする。 鳥居：生活行動：日常生活の中で行動をとらえる方法について、心理学的視点から導入的解説をする。 池田：社会システム：神戸というまちを題材に、都市を社会科学的に分析する方法について導入的解説をする。 竹田：社会生活：家族や生活様式を捕らえる方法について生活学的視点から導入的解説をする。 30後期のまとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	資料収集・フィールド・ワーク
授業方法	演習
評価基準と評価方法	授業中の課題（40%）、レポート（60%）などによる総合評価

教科書	
参考書	

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	基礎演習						
担当教員	鳥居　さくら						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	4.0

授業のテーマ	本演習は、生活学科都市生活専攻の１年生が、大学で学ぶことに意義を自覚し、高校と異なる授業への円滑な移行と新に学ぶ「都市生活」に関する認識、洞察を深めるための基礎訓練を目的に開講されている。
授業の概要	コンピューターを用いた資料の収集の方法、レジュメの作成、発表技術など、大学で学びのための知識や技術を修得させ、さらに本専攻で学ぶ生活科学、生活行動、社会生活、社会システムの４つをキーワードとして、それぞれの手法を修得しながら「都市生活」の問題に接近する。これによって、本専攻へのより高い関心を促し必要なデータや資料の収集のため学外で授業を行うことがある。
到達目標	都市生活専攻へのより高い関心を持ち、自分のキャリア・デザインを１年生の段階から描くことができ、本専攻で学ぶための基礎知識と意欲を持つことが出来る。
授業計画	以下の内容をオムニバス形式で行う。 1. オリエンテーションとキャンパス探検 2. 図書館の使い方Ⅰ・新入生オリエンテーションの反省と来年度の計画 3. 図書館の使い方Ⅱ・大学での学び方 4. 文献資料収集・整理の方法 5. 資料の読み方 6. 引用・参考文献の書き方 7. レポートの構成 8. レポートの書き方Ⅰ 9. レポートの書き方Ⅱ 10. プレゼンテーションの仕方（自分の考えを他人に伝える） 11. プレゼンテーションの仕方（レジュメ作成） 12. プレゼンテーションの仕方（口頭発表・オーラル発表） 13. フィールドワークⅠ 14. フィールドワークⅡ 15. 夏休みの課題説明 16. 夏休みの課題報告 17. 夏休みの課題報告 18. ー29オムニバス形式の演習（表参照） LU①　LU②　LU③　LU④ 18-20回　池田　竹田　武智　鳥居 21-23回　竹田　武智　鳥居　池田 24-26回　武智　鳥居　池田　竹田 27-29回　鳥居　池田　竹田　武智 武智：生活科学：日常生活の中にあるモノをとらえる方法について、主に食物学的な視点から導入解説をする。 鳥居：生活行動：日常生活の中で行動をとらえる方法について、心理学的視点から導入的解説をする。 池田：社会システム：神戸というまちを題材に、都市を社会科学的に分析する方法について導入的解説をする。 竹田：社会生活：家族や生活様式を捕らえる方法について生活学的視点から導入的解説をする。 30後期のまとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	資料収集・フィールド・ワーク
授業方法	演習
評価基準と評価方法	授業中の課題（40%）、レポート（60%）などによる総合評価

教科書	
参考書	

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	行動科学基礎演習I						
担当教員	鳥居　さくら						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	心理学の基礎的な実験法と考え方の習得
授業の概要	心理学の基礎的な実験方法と考え方について学びます。少人数のグループに分かれ、知覚、学習・記憶、情意・行動などの心理学の基礎的な実験を、実験者および被験者として実施し、データをまとめ、考察を加え、レポートを作成し、一連の実験研究過程を経験します。それらの手続きを通して、実験のやり方、データの分析法およびグラフの作成法を習得します。
到達目標	心理学の基礎的な実験手法やデータの整理の仕方について習得できるようになります。
授業計画	1.授業の進め方、班分け 2.レポートの書き方(1)－構成― 3.レポートの書き方(2)－図表の作成― 4.ミュラーリヤーの錯視(1)－解説― 5.ミュラーリヤーの錯視(2)－実験の実施― 6.ミュラーリヤーの錯視(3)－データの整理― 7.鏡映描写(1)－解説と実験― 8.鏡映描写(2)－データの整理― 9.自由再生における系列位置効果(1)－解説と実験― 10.自由再生における系列位置効果(2)－データの整理― 11.要求水準(1)－解説と実験― 12.要求水準(2)－データの整理― 13.認知的葛藤(1)－解説と実験― 14.認知的葛藤(2)－データの整理― 15.講評
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：教科書の該当実験のページに目をとおしておいてください。 授業後学習：１つのテーマが終わったら、次のテーマの授業時間初めまでに、その回の実験レポートを提出するようにしてください。
授業方法	実習形式でおこないます。
評価基準と評価方法	レポート80%（締め切り厳守）、実験への取り組み20%
教科書	「実験とテスト＝心理学の基礎　実習編」心理学実験指導研究会　編　培風館
参考書	

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	行動科学基礎演習II						
担当教員	鳥居　さくら						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	心理学の基礎的な実験、検査・調査法と考え方の習得
授業の概要	心理学の基礎的な実験方法、検査や調査法と考え方について学びます。少人数のグループに分かれ、知覚、学習・記憶、情意・行動などの心理学の基礎的な実験を、実験者および被験者として実施し、データをまとめ、考察を加え、レポートを作成し、一連の実験研究過程を経験します。それらの手続きを通して、実験のやり方、データの分析法およびグラフの作成法を習得します。
到達目標	心理学の基礎的な実験、検査や調査の手法、データの整理、および解析の仕方について習得できるようになります。
授業計画	1.講義の進め方、班分け 2.状態不安尺度(STAI)の受検と整理、解釈 3.京大NX知能検査(1)－解説－ 4.京大NX知能検査(2)－受検と評点— 5.SD法によるイメージの測定(1)—解説と実験— 6.SD法によるイメージの測定(2)—データの整理— 7.SD法によるイメージの測定(3)—解析— 8.一対比較による好悪の尺度化(1)－解説と実験— 9.一対比較による好悪の尺度化(2)－データの整理— 10.一対比較による好悪の尺度化(3)－解析— 10.社会的態度尺度の構成　サーストンの態度尺度構成法(1)－解説と評定－ 11..社会的態度尺度の構成　サーストンの態度尺度構成法(2)－整理と解釈－ 12.社会的態度尺度の構成　リッカート法による態度測定(1)　—解説と評定－ 13.社会的態度尺度の構成　リッカート法による態度測定(2)　—整理と解釈－ 15.講評
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：教科書の該当実験のページに目をとおしておいてください。 授業後学習：次の実験までに、その回の実験レポートを提出するようにしてください。
授業方法	実習形式でおこないます。
評価基準と評価方法	レポート80%（締め切り厳守）、実験への取り組み20%
教科書	「実験とテスト＝心理学の基礎　実習編」心理学実験指導研究会　編　培風館
参考書	

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	社会生活I（生活と家族）						
担当教員	青木　加奈子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	「家族問題」再考
授業の概要	本授業では、生活者の立場から家族を取り巻く多様な変化をとらえ、現実社会の問題を体系的に検討する。まず、戦後以降の家族が社会との関わりの中でどのように変化していったのかを解説する。その後、私たちの生活において身近なテーマを取り上げ、なぜそのような現象が生じ、問題を抱える人がいるのかについて議論していく。
到達目標	①家族は、個人的なものであるだけでなく社会システムの中に位置づけられていることを理解する。 ②「家族問題」「家族の変化」と言われるものについて、客観的・批判的に考える力をつける。
授業計画	第１回　イントロダクション：生活者としての家族、生活者としてのわたし 第２回　高度経済成長と家族 第３回　女性の社会進出と家族 第４回　働きかたの変化と家族 第５回　結婚する？しない？ 第６回　子どもを持つ？持たない？ 第７回　ケアと家族①：子育ての主体は誰？ 第８回　ケアと家族②：「イクメン」は今後増えるか？ 第９回　ケアと家族③：介護が「問題」となるとき 第10回　家族問題①：「家族だから」という言葉が持つ重圧 第11回　家族問題②：ひとり親家族とステップファミリー 第12回　家族問題③：孤立する家族 第13回　外国の事例①：デンマーク社会と家族 第14回　外国の事例②：デンマークの子育て 第15回　まとめ：「家族」か？「個（弧）族」か？
授業外における学習（準備学習の内容）	事前学習・・・日頃から新聞やニュースに注目し、現在、家族に関してどのような現象が話題になっているのかを確認しておくこと。 事後学習・・・授業内容をもう一度自分なりに整理し、自分の考えをまとめること。また、授業で課されるミニレポートを作成する。
授業方法	講義が中心であるが、グループワークやディスカッションも入れる。
評価基準と評価方法	期末レポート　60%、ミニレポート（グループワークを含む）　30%、平常点　10%
教科書	
参考書	

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	社会生活I（生活と家族）						
担当教員	竹田　美知						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	社会における人間関係について、その基本的単位である家族について理解する。現代家族の諸現象、晩婚化、少子化、国際化を概説し、親子関係の密室化、夫婦関係のライフコース上の変化、家族と地域社会ネットワークをを考える。授業はライフコース上の諸問題とその対処方法を家族関係学観点から探る。
授業の概要	家族関係を分析する諸概念や理論を解説する。それらの方法を、現実に起こっている諸現象に適用して、その有効性と限界を確認する。また現代の家族関係の多様化を多角的にとらえる視点を育成し、支援や援助のサービスのあり方を検討する。
到達目標	知識　現代家族の問題を多角的にとらえられる。 能力　家族関係学の視点からその支援や援助サービスのあり方について検討できる
授業計画	1. 青年期と異性交際 2. 配偶者選択 3. 家族の概念と定義 4. 家族の形態とその変化 5. 少子化とその原因分析 6. 家族関係を分析する理論—役割理論— 7. 家族関係を分析する理論—ジェンダー理論— 8. 家族関係を分析する理論—ライフコース理論— 9. 人間関係を分析する理論—コーホート理論－ 10. 高齢社会と家族 11. 家族の多様化 12. 家族とグローバリゼーション 13. 夫婦関係と法律 14. 親子関係と法律 15. まとめ・期末試験
授業外における学習（準備学習の内容）	現代家族に関する資料を読み、その内容をまとめてレポートをしてくる。
授業方法	講義
評価基準と評価方法	小レポートと期末試験（授業中の小レポート４０％　期末試験　６０％）
教科書	よくわかる現代家族　ミネルヴァ書房　神原文子・杉井潤子・竹田美知編著 ISBN 9784623053445
参考書	

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	社会生活II（神戸論）						
担当教員	池田　清						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	この授業では、都市社会のモデルとして近代的都市の典型として神戸を取り上げ、都市生活における政治的、行政的、経済的、文化的諸問題とこれからの課題を検証する。
授業の概要	神戸の歴史を理解するために具体的事例から学ぶ。また阪神・淡路大震災を経験した都市として、被災地神戸の問題を検証することで、今後、都市で起こりうる災害に対する対処する方法と課題について考える。
到達目標	これからのまちづくりは、自分の身近な生活や文化の視点から問題を考えることが大切である。
授業計画	第1回　授業の狙いと概要の説明 第2回　神戸の歴史（古代） 第3回　神戸の歴史（中世） 第4回　神戸の歴史（近世） 第5回　神戸の歴史（近代） 第6回　神戸の歴史（現代） 第7回　神戸市の都市経営 第8回　神戸の文化とまちづくり 第9回　キリスト教とまちづくり 第10回 都市づくりと阪神・淡路大震災 第11回 神戸市の都市経営と阪神・淡路大震災 第12回 復興政策とまちづくり 第13回 復興災害と被災者の生活再建 第14回 真の復興とは 第15回 まとめと試験
授業外における学習（準備学習の内容）	新聞や雑誌、ニュースなど社会の動きに関心を持つ。
授業方法	講義を中心にビデオなどを活用する。
評価基準と評価方法	試験70%、小テストかレポート30%
教科書	プリント配布
参考書	

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	社会生活III（情報社会）						
担当教員	打田　素之						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	現代日本社会の分析
授業の概要	現代日本の社会現象をサブカルチャー、伝統文化、精神分析の三つの側面から検討する。
到達目標	社会現象の背後に隠されたメカニズムの解明
授業計画	第１回　授業計画の説明と導入 第２回　かわいい論（１） 第３回　かわいい論（２） 第４回　戦う〈美少女〉 第５回　演歌と日本の心（１） 第６回　演歌と日本の心（２） 第７回　Ｊポップの恋愛論（１） 第８回　Ｊポップの恋愛論（２） 第９回　女嫌い（１）：母と娘のミソジニー 第10回　女嫌い（２）：女子校文化のミソジニー 第11回　婚活現象（１） 第12回　婚活現象（２） 第13回　サブリミナル効果（１） 第14回　サブリミナル効果（２） 第15回　まとめとテスト
授業外における学習（準備学習の内容）	・毎日、新聞を読むこと。 ・ＴＶ番組の「クローズアップ現代」（ＮＨＫ、夜７時30分）、「ＷＢＳニュース」（テレビ大阪、夜11時）を見ること。 ・参考書として挙げられている本を読むこと。
授業方法	講義
評価基準と評価方法	平常点５０％、期末テスト５０％。
教科書	
参考書	「かわいい論」四方田犬彦、ちくま新書、ISBN４－４８０－０６２８１－５Ｃ０２９５ 「美少女の現代史」ササキバラ・ゴウ、講談社現代新書、ISBN４－０６－１４９７１８－９　Ｃ０２７０ 「創られた『日本の心』神話」輪島祐介、光文社新書、ISBN９７８－４－３３４－０３５９０－７　Ｃ０２７３ 「Jポップの心象風景」烏賀陽弘道、文春新書、ISBN４－１６－６６０４３２－５　Ｃ０２７３ 「サブリミナル・マインド」下条信輔、中公新書、ISBN４－１２－１０１３２４－７　Ｃ１２１１ 「呪いの時代」内田樹、新潮社、ISBN９７８－４－１０－３３００１１－３　Ｃ００９５ 「女ぎらい」上野千鶴子、紀伊国屋書店、ISBN９７８－４－３１４－０１０６９－６　Ｃ００３６ 「増補サブカルチャー神話解体」宮台真司他、ちくま文庫、ISBN９７８－４－４８０－４２３０７－８　Ｃ０１３６

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	社会生活Ⅳ（共生社会）						
担当教員	辻野　理花						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	多文化共生について考える
授業の概要	共生社会とは、民族、男女、世代、地域など様々な生活習慣、文化をもつ集団に属する人々が、互いの違いを認め、対等な関係を築こうとしながら、共に生きていく社会のことである。21世紀はグローバリゼーションが進み、ヒト、モノ、カネ、情報が国境を越えて大規模に移動する時代である。このような時代に互いを尊重しながら暮らしていく社会に必要なものはどのようなものであろうか。現在、グローバリゼーションや少子高齢化への対応を理由とした、本格的な外国人労働者、留学生、移民の受け入れの提言がなされている。これらのことも視野に入れて、様々な人々が共生するためにどのようなことを考えていったらよいかを共に考えたい。
到達目標	日本社会の多様性についての理解を深める
授業計画	第1回イントロダクション 第2回日本社会における在住外国人の概要① 第3回日本社会における在住外国人の概要② 第4回世界の中の日本 第5回在住外国人の受け入れのしくみ 第6回日本社会の多様性を知る① 第7回日本社会の多様性を知る② 第8回日本社会の多様性を知る③ 第9回日本社会の多様性を知る④ 第10回日本社会の多様性を知る⑤ 第11回多様な人々との共生① 第12回多様な人々との共生② 第13回多様な人々との共生③ 第14回多文化共生について考える 第15回まとめ 講義の進度によって、順序や内容を変更することもあります
授業外における学習（準備学習の内容）	日ごろからテーマに関連するニュースを気をつけて知るようにしてください
授業方法	講義形式
評価基準と評価方法	授業中に書いてもらう小レポート、小テスト（複数回）、課題、および平常点で評価する。
教科書	プリントを配布します。
参考書	授業中に紹介します。 グローバル化時代の日本型多文化共生社会 著 駒井洋（明石書店）

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	社会生活V（都市文化）						
担当教員	池田　清						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	文化は、一般に絵画、音楽、彫刻などを指すが、この授業では、都市における衣・食・住などの生活文化を対象とする。
授業の概要	都市の衣・食・住などの生活文化を、単なるモノやサービスとして評価するのでなく、その都市に固有の文化を担うもの、と位置づける。
到達目標	都市の発展は、都市の文化を蓄積し、国際的な知識や技術と結合することが必要である。この授業は、都市文化と都市発展との関係を考える。
授業計画	第1回　授業のねらいと概要 第2回　文明と文化 第3回　古代文明と文化 第4回　中世の文明と文化 第5回　近代文明と文化 第6回　チャップリン「モダンタイムズ」と文化 第7回　生活と文化 第8回　神戸における多文化共生の取り組み 第9回　食文化と健康 第10回 食文化と農林漁業　都市と農村 第11回 生活の芸術化 第12回 文化とモラル 第13回 文化によるまちづくり 第14回 食文化と環境問題 第15回 まとめと試験
授業外における学習（準備学習の内容）	都市文化に関する新聞やニュースなど社会の動向に関心を持つ
授業方法	講義を中心にビデオなどを活用し具体的事例をあげて学ぶ
評価基準と評価方法	試験70%、小テストかレポート30%。欠席した場合は減点
教科書	授業のときに指示する
参考書	

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	社会調査基礎演習Ⅰ						
担当教員	竹田　美知						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	社会調査により資料やデータ収集を行い、分析しうる形に整理していくための具体的方法および分析についての基本的考え方の習得を目的とする。
授業の概要	授業では、調査目的の設定、調査方法の選定、調査企画と設計、仮説の構成、標本の抽出、質問文・回答のデザイン、調査票の作り方、調査の実施方法（調査票の配布・回収法、インタビューの仕方など）、調査データの整理などを実習する。
到達目標	資料やデータを収集し、分析しうる形に整理し、得られた調査結果や実習の過程を検討し、後期の社会調査基礎演習Ⅱにつなげる。
授業計画	第１回　イントロダクション：講義の目的、内容、社会調査士の資格との関連について。社会調査の定義・目的・種類～社会調査とは何か～：データブックなどを参照し、社会調査のよって得られるデータについて理解する。社会調査のプロセス：調査の流れや全体像を把握する。 第２回　問題意識の明確化～何を知りたいのか～：調査を具体化するために、問いのたて方を学ぶ（記述的な問いと説明的な問い） 第３回　関連する情報の探索と検討～何が明らかになっていて、何が明らかになっていないのか～：問題意識と関連するデータを探索する（先行研究の検討）。 第４回　仮説の構成～明らかにしたいことは何にか、どのように検証するのか～：問題意識をもとに、仮説（理論仮説と作業仮説）を組み立てる。 第５回　概念の操作化と変数の設定～どのように分析するのか～：仮説を検証するために概念を操作化し、変数を設定する。変数と尺度の水準（名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比例尺度）について理解する（質的変数・量的変数）。 第６回　調査者の選定～誰を対象とするのか～：全数調査と標本調査、母集団と標本の関係、標本と誤差 第７回　サンプリングの方法～どのように標本を抽出するのか～：単準無作為抽出法・系統抽出法・層化抽出法・多段抽出法 第８回　調査方法の選択～どのような方法で調査するのか～：調査票の配布・回収方法（面接調査・留置調査・郵送調査・集合調査・電話調査・インターネットなど）、調査の信頼性、調査倫理、質問紙調査の種類と特徴について学ぶ。 第９回　調査票の作成（１）：調査票の作成の方法を学ぶ（依頼文書、体裁、質問項目、回答形式、フェイスシートなど）。 第１０回　調査票の作成（２）：質問文を考える（ワーディング）。質問文を作成するときの留意点を学ぶ。 第１１回　調査票の作成（３）：回答形式を考える（選択肢、尺度の設定） 第１２回　調査票の作成（４）：プリテストと調査票の最チェックを行う 第１３回　調査の実施：実査の方法について学ぶ。 第１４回　調査データの整理（１）：回収された調査票の点検、エディング、コーディング、有効票、無効票の区別、回収率について学ぶ。 第１５回　調査データの整理（２）：調査票からコンピューターへの入力、単純集計とクロス集計を使ったデータクリーニングの方法を学ぶ。調査報告とデータ管理：調査の報告とデータ管理について学ぶ。
授業外における学習（準備学習の内容）	社会調査に必要な資料やデータ収集のために学内、学外で実習を行うことがある。
授業方法	演習
評価基準と評価方法	授業中の課題（４０％）、レポート（６０％）などによる総合評価を行う。
教科書	間連する資料を随時配布する。

参考書	大谷信介、2005、「社会調査へのアプローチ（第2版）」ミネルヴァ書房 嶋崎尚子　2008、「社会調査のリテラシー１　社会をとらえるためのルール」学文社 西野理子　2008、「社会調査のリテラシー２　社会をはかるためのルール」学文社 轟亮・杉野勇、2010、「入門・社会調査法　２ステップで基礎から学ぶ」法律文化社

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	社会調査基礎演習I						
担当教員	中塚　朋子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	社会調査により資料やデータ収集を行い、分析しうる形に整理していくための具体的方法および分析についての基本的考え方の習得を目的とする。
授業の概要	授業では、調査目的の設定、調査方法の選定、調査企画と設計、仮説の構成、標本の抽出、質問文・回答のデザイン、調査票の作り方、調査の実施方法（調査票の配布・回収法、インタビューの仕方など）、調査データの整理などを実習する。本授業で得られた調査結果や実習の過程を検討し、後期の社会調査基礎演習Ⅱにつなげる。
到達目標	調査目的の設定、調査方法の選定、調査企画と設計、仮説の構成、標本の抽出、質問文・回答のデザイン、調査票の作り方、調査の実施方法、調査データの整理など、質問紙調査にもとづく社会調査の方法を習得する。
授業計画	第１回　イントロダクション：講義の目的、内容、社会調査士資格との関連について。 社会調査の定義・目的・種類～社会調査とは何か～ ：データブックなどを参照し、社会調査によって得られるデータについて理解する。 社会調査のプロセス ：調査の流れや全体像を把握する。 第２回　問題意識の明確化～何を知りたいのか～ ：調査を具体化するために、問いの立て方を学ぶ（記述的な問いと説明的な問い）。 第３回　関連する情報の探索と検討～何が明らかになっていて、何が明らかになっていないのか～ ：問題意識と関連するデータを探索する（先行研究の検討）。 第４回　仮説の構成～明らかにしたいことは何か、どのように検証するのか～ ：問題意識をもとに、仮説（理論仮説と作業仮説）を組み立てる。 第５回　概念の操作化と変数の設定～どのように分析するのか～ ：仮説を検証するために概念を操作化し、変数を設定する。 変数と尺度の水準（名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比例尺度）について 理解する（質的変数／量的変数）。 第６回　調査対象者の選定～誰を対象とするのか～ ：全数調査と標本調査、母集団と標本の関係、標本と誤差 第７回　サンプリングの方法～どのように標本を抽出するのか～ ：単純無作為抽出法・系統抽出法・層化抽出法・多段抽出法 第８回　調査方法の選択～どのような方法で調査するのか～ ：調査票の配布・回収方法（面接調査・留置調査・郵送調査・集合調査・電話調査・ インターネットなど）、調査の信頼性、調査倫理、質問紙調査の種類と特徴について学ぶ。 第９回　調査票の作成（１） ：調査票の作成の方法を学ぶ（依頼文書、体裁、質問項目、回答形式、フェイスシートなど）。 第10回　調査票の作成（２） ：質問文を考える（ワーディング）。質問文を作成するときの留意点を学ぶ。 第11回　調査票の作成（３） ：回答形式を考える（選択肢、尺度の設定）。 第12回　調査票の作成（４） ：プリテストと調査票の最終チェックを行う。 第13回　調査の実施 ：実査の方法について学ぶ。 第14回　調査データの整理（１） ：回収された調査票の点検、エディティング、コーディング、有効票・無効票の区別、 回収率について学ぶ。 第15回　調査データの整理（２） ：調査票からコンピュータへの入力、単純集計とクロス集計を使った データクリーニングの方法を学ぶ。 調査報告とデータ管理 ：調査報告の方法とデータ管理について学ぶ。

授業外における学習（準備学習の内容）	事前の学習：授業課題の準備を行う。 事後の学習：授業課題の再検討を行う。
授業方法	演習
評価基準と評価方法	授業中の課題（40%）、レポート（60%）などによる総合評価を行う。
教科書	関連する資料を随時配布する。
参考書	大谷信介編, 2005, 『社会調査へのアプローチ〔第２版〕』ミネルヴァ書房 嶋崎尚子, 2008, 『社会調査のリテラシー１　社会をとらえるためのルール』学文社. 西野理子, 2008, 『社会調査のリテラシー２　社会をはかるためのルール』学文社. 轟亮・杉野勇編, 2010, 『入門・社会調査法　２ステップで基礎から学ぶ』法律文化社.

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	社会調査基礎演習I						
担当教員	中塚　朋子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	社会調査により資料やデータ収集を行い、分析しうる形に整理していくための具体的方法および分析についての基本的考え方の習得を目的とする。
授業の概要	授業では、調査目的の設定、調査方法の選定、調査企画と設計、仮説の構成、標本の抽出、質問文・回答のデザイン、調査票の作り方、調査の実施方法（調査票の配布・回収法、インタビューの仕方など）、調査データの整理などを実習する。本授業で得られた調査結果や実習の過程を検討し、後期の社会調査基礎演習Ⅱにつなげる。
到達目標	調査目的の設定、調査方法の選定、調査企画と設計、仮説の構成、標本の抽出、質問文・回答のデザイン、調査票の作り方、調査の実施方法、調査データの整理など、質問紙調査にもとづく社会調査の方法を習得する。
授業計画	第１回　イントロダクション：講義の目的、内容、社会調査士資格との関連について。 社会調査の定義・目的・種類～社会調査とは何か～ ：データブックなどを参照し、社会調査によって得られるデータについて理解する。 社会調査のプロセス ：調査の流れや全体像を把握する。 第２回　問題意識の明確化～何を知りたいのか～ ：調査を具体化するために、問いの立て方を学ぶ（記述的な問いと説明的な問い）。 第３回　関連する情報の探索と検討～何が明らかになっていて、何が明らかになっていないのか～ ：問題意識と関連するデータを探索する（先行研究の検討）。 第４回　仮説の構成～明らかにしたいことは何か、どのように検証するのか～ ：問題意識をもとに、仮説（理論仮説と作業仮説）を組み立てる。 第５回　概念の操作化と変数の設定～どのように分析するのか～ ：仮説を検証するために概念を操作化し、変数を設定する。 変数と尺度の水準（名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比例尺度）について 理解する（質的変数／量的変数）。 第６回　調査対象者の選定～誰を対象とするのか～ ：全数調査と標本調査、母集団と標本の関係、標本と誤差 第７回　サンプリングの方法～どのように標本を抽出するのか～ ：単純無作為抽出法・系統抽出法・層化抽出法・多段抽出法 第８回　調査方法の選択～どのような方法で調査するのか～ ：調査票の配布・回収方法（面接調査・留置調査・郵送調査・集合調査・電話調査・ インターネットなど）、調査の信頼性、調査倫理、質問紙調査の種類と特徴について学ぶ。 第９回　調査票の作成（１） ：調査票の作成の方法を学ぶ（依頼文書、体裁、質問項目、回答形式、フェイスシートなど）。 第10回　調査票の作成（２） ：質問文を考える（ワーディング）。質問文を作成するときの留意点を学ぶ。 第11回　調査票の作成（３） ：回答形式を考える（選択肢、尺度の設定）。 第12回　調査票の作成（４） ：プリテストと調査票の最終チェックを行う。 第13回　調査の実施 ：実査の方法について学ぶ。 第14回　調査データの整理（１） ：回収された調査票の点検、エディティング、コーディング、有効票・無効票の区別、 回収率について学ぶ。 第15回　調査データの整理（２） ：調査票からコンピュータへの入力、単純集計とクロス集計を使った データクリーニングの方法を学ぶ。 調査報告とデータ管理 ：調査報告の方法とデータ管理について学ぶ。

授業外における学習（準備学習の内容）	事前の学習：授業課題の準備を行う。 事後の学習：授業課題の再検討を行う。
授業方法	演習
評価基準と評価方法	授業中の課題（40%）、レポート（60%）などによる総合評価を行う。
教科書	関連する資料を随時配布する。
参考書	大谷信介編, 2005, 『社会調査へのアプローチ〔第２版〕』ミネルヴァ書房 嶋崎尚子, 2008, 『社会調査のリテラシー１　社会をとらえるためのルール』学文社. 西野理子, 2008, 『社会調査のリテラシー２　社会をはかるためのルール』学文社. 轟亮・杉野勇編, 2010, 『入門・社会調査法　２ステップで基礎から学ぶ』法律文化社.

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	社会調査基礎演習II						
担当教員	中塚　朋子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	さまざまな質的データの収集や分析方法を習得することを目的とし、質的研究および質的調査の意義と特質を理解し、調査の企画・設計・分析・報告の方法を学ぶ。
授業の概要	フィールドワーク、エスノグラフィー、聞き取り調査、参与観察法、考現学的観察、ドキュメント分析、内容分析、言説分析、エスノメソドロジー（相互行為分析）、会話分析、インタビュー、ライフヒストリー分析、ライフストーリー分析、ナラティヴ分析、グランデッド・セオリー・アプローチなどの手法が、代表的な質的研究あるいは質的調査としてあげられる。授業では、問題設定や仮説にもとづき適切な技法を選択し、言語的データや非言語的データなどの質に応じて、データの収集および分析の方法を実習する。
到達目標	調査の意義と特質を理解し、企画・設計・分析・報告をとおして、質的研究および質的調査にもとづく社会調査の方法を習得する。
授業計画	第１回　質的研究および質的調査の意義と特質～さまざまな調査方法を学ぼう～ ：量的データと質的データの特性、量的研究と質的研究の意義と特質を理解する。 既存の研究や調査を題材として、質的研究の方法を学ぶ。 第２回　質的研究および質的調査の方法～さまざまな調査方法を学ぼう～ ：さまざまな質的研究および質的調査の方法を先行研究から学ぶ。 第３回　内容分析（１）～文字・活字データを分析しよう～ ：新聞・雑誌記事などのメディアにおける質的データを量的データに変換し、分析する方法を学ぶ。 データベースを利用してキーワード検索を行い、データを収集し、内容を検討する。 第４回　内容分析（２）～文字・活字データを分析しよう～ ：分析単位の設定とコーディングを行い、データを整理する。 第５回　内容分析（３）～文字・活字データを分析しよう～ ：整理されたデータの信頼性と妥当性を確認する。 第６回　内容分析（４）～文字・活字データを分析しよう～ ：データを図表化、分析の結果を文章化し、報告書としてまとめる。 第７回　聞き取り調査による分析（１）～音声データを分析しよう～ ：聞き取りを通して得られた情報を、問題設定に応じて分析を行う。主な分析の手法として、 エスノグラフィー、ライフコース分析、ライフヒストリー分析、ライフストーリー分析、 ナラティヴ分析などがある。問題設定を行い、聞き取りの対象、内容、場所について検討する。 第８回　聞き取り調査による分析（２）～音声データを分析しよう～ ：聞き取り調査を実施する。 第９回　聞き取り調査による分析（３）～音声データを分析しよう～ ：トランスクリプトの作成やデータの再構成など、得られたデータの整理を行う。 第10回　聞き取り調査による分析（４）～音声データを分析しよう～ ：データを分析し、報告書にまとめる。 第11回　観察による分析（１）～視覚的なデータを分析しよう～ ：観察を通して得られた情報を、問題設定に応じて分析を行う。主な分析の手法として、 参与観察法、考現学的観察法、ドキュメント分析、エスノメソドロジー（相互行為分析）などがある。問題設定を行い、観察の対象、内容、場所について検討する。 第12回　観察による分析（２）～視覚的なデータを分析しよう～ ：観察調査を実施する。 第13回　観察による分析（３）～視覚的なデータを分析しよう～ ：観察されたデータの検討を行う。 第14回　観察による分析（４）～視覚的なデータを分析しよう～ ：観察されたデータを分析し、報告書にまとめる。 第15回　分析結果のプレゼンテーション ：報告書としてまとめた分析結果レジュメやパワーポイントによって発表する。

授業外における学習（準備学習の内容）	事前の学習：授業課題の準備を行う。 事後の学習：授業課題の再検討を行う。
授業方法	演習
評価基準と評価方法	授業姿勢、授業中に提出するレポート（90%）や発表の仕方（10%）によって、総合的に評価する。
教科書	関連する資料を随時配布する。
参考書	谷富夫・芦田徹郎編著，2009，『よくわかる質的社会調査　技法編』ミネルヴァ書房. 谷富夫・山本努編著，2010，『よくわかる質的社会調査　プロセス編』ミネルヴァ書房. 轟亮・杉野勇編，2010，『入門・社会調査法　２ステップで基礎から学ぶ』法律文化社. 盛山和夫 ，2004，『社会調査法入門』有斐閣.

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	社会調査基礎演習II						
担当教員	中塚　朋子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	さまざまな質的データの収集や分析方法を習得することを目的とし、質的研究および質的調査の意義と特質を理解し、調査の企画・設計・分析・報告の方法を学ぶ。
授業の概要	フィールドワーク、エスノグラフィー、聞き取り調査、参与観察法、考現学的観察、ドキュメント分析、内容分析、言説分析、エスノメソドロジー（相互行為分析）、会話分析、インタビュー、ライフヒストリー分析、ライフストーリー分析、ナラティヴ分析、グランデッド・セオリー・アプローチなどの手法が、代表的な質的研究あるいは質的調査としてあげられる。授業では、問題設定や仮説にもとづき適切な技法を選択し、言語的データや非言語的データなどの質に応じて、データの収集および分析の方法を実習する。
到達目標	調査の意義と特質を理解し、企画・設計・分析・報告をとおして、質的研究および質的調査にもとづく社会調査の方法を習得する。
授業計画	第１回　質的研究および質的調査の意義と特質～さまざまな調査方法を学ぼう～ ：量的データと質的データの特性、量的研究と質的研究の意義と特質を理解する。 既存の研究や調査を題材として、質的研究の方法を学ぶ。 第２回　質的研究および質的調査の方法～さまざまな調査方法を学ぼう～ ：さまざまな質的研究および質的調査の方法を先行研究から学ぶ。 第３回　内容分析（１）～文字・活字データを分析しよう～ ：新聞・雑誌記事などのメディアにおける質的データを量的データに変換し、分析する方法を学ぶ。 データベースを利用してキーワード検索を行い、データを収集し、内容を検討する。 第４回　内容分析（２）～文字・活字データを分析しよう～ ：分析単位の設定とコーディングを行い、データを整理する。 第５回　内容分析（３）～文字・活字データを分析しよう～ ：整理されたデータの信頼性と妥当性を確認する。 第６回　内容分析（４）～文字・活字データを分析しよう～ ：データを図表化、分析の結果を文章化し、報告書としてまとめる。 第７回　聞き取り調査による分析（１）～音声データを分析しよう～ ：聞き取りを通して得られた情報を、問題設定に応じて分析を行う。主な分析の手法として、 エスノグラフィー、ライフコース分析、ライフヒストリー分析、ライフストーリー分析、 ナラティヴ分析などがある。問題設定を行い、聞き取りの対象、内容、場所について検討する。 第８回　聞き取り調査による分析（２）～音声データを分析しよう～ ：聞き取り調査を実施する。 第９回　聞き取り調査による分析（３）～音声データを分析しよう～ ：トランスクリプトの作成やデータの再構成など、得られたデータの整理を行う。 第10回　聞き取り調査による分析（４）～音声データを分析しよう～ ：データを分析し、報告書にまとめる。 第11回　観察による分析（１）～視覚的なデータを分析しよう～ ：観察を通して得られた情報を、問題設定に応じて分析を行う。主な分析の手法として、 参与観察法、考現学的観察法、ドキュメント分析、エスノメソドロジー（相互行為分析）などがある。問題設定を行い、観察の対象、内容、場所について検討する。 第12回　観察による分析（２）～視覚的なデータを分析しよう～ ：観察調査を実施する。 第13回　観察による分析（３）～視覚的なデータを分析しよう～ ：観察されたデータの検討を行う。 第14回　観察による分析（４）～視覚的なデータを分析しよう～ ：観察されたデータを分析し、報告書にまとめる。 第15回　分析結果のプレゼンテーション ：報告書としてまとめた分析結果レジュメやパワーポイントによって発表する。

授業外における学習（準備学習の内容）	事前の学習：授業課題の準備を行う。 事後の学習：授業課題の再検討を行う。
授業方法	演習
評価基準と評価方法	授業姿勢、授業中に提出するレポート（90%）や発表の仕方（10%）によって、総合的に評価する。
教科書	関連する資料を随時配布する。
参考書	谷富夫・芦田徹郎編著，2009，『よくわかる質的社会調査　技法編』ミネルヴァ書房. 谷富夫・山本努編著，2010，『よくわかる質的社会調査　プロセス編』ミネルヴァ書房. 轟亮・杉野勇編，2010，『入門・社会調査法　２ステップで基礎から学ぶ』法律文化社. 盛山和夫 ，2004，『社会調査法入門』有斐閣.

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	社会調査論						
担当教員	佐々木　洋子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	社会調査について、理論や技法などの基礎的事項を学ぶ。
授業の概要	これまでの社会調査史をたどりながら、実際の調査を題材として、社会調査の意義、用途を解説する。さらに資料の収集、調査の設計から、現地調査の実施の方法、データの収集と分析、報告書の作成までの一連の流れを、量的・質的調査の双方について概説する。また社会調査の全過程における調査倫理について理解をはかる。
到達目標	社会調査の基礎的な理論や技法を習得し、実際に社会調査が出来るようになる。
授業計画	第１回　社会調査の意義と用途 第２回　社会調査の歴史 第３回　社会調査のうそ 第４回　問題意識の明確化 第５回　先行研究の検討 第６回　概念・指標・変数 第７回　仮説構成とモデルづくり 第８回　実査と調査倫理 第９回　調査の種類と実例Ⅰ　調査目的別（学術調査・マーケティング調査・官公庁統計・世論調査） 第10回　調査の種類と実例Ⅱ　調査時点別（クロスセクションサーベー・継続調査・パネルサーベー） 第11回　調査の種類と実例Ⅲ　調査地点別（地域調査・全国調査・国際比較調査） 第12回　量的調査と質的調査 第13回　統計調査と事例研究法 第14回　二次データの利用 第15回　まとめと試験
授業外における学習（準備学習の内容）	講義中に紹介する社会調査およびテレビ、新聞、インターネットなどで見かける社会調査について、調べること。
授業方法	講義
評価基準と評価方法	授業内課題（20%）期末テスト（80%）
教科書	大谷信介ほか編，2005『社会調査へのアプローチ　第2版　―論理と方法―』ミネルヴァ書房　9784623041046
参考書	轟亮・杉野勇編，2010『入門・社会調査法―2ステップで基礎から学ぶ』法律文化社　9784589032577 その他、随時紹介

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	社会と健康						
担当教員	谷　めぐみ						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	社会と健康の科学
授業の概要	社会の大きな変化のなかで、健康や安全の問題は多様化しています。また新たな健康問題の登場とともに、健康のとらえ方や健康を守る活動も変化してきています。私たちが現代の健康課題とその対策について学ぶことは、自分たちだけではなく、すべての人びとが健康の保持増進を実現するために必要なことです。授業では、身体活動をはじめとする健康的な生活習慣を実現することと健康的な環境を作り出すことに着目したヘルスプロモーションの考え方について見ていきます。
到達目標	様々なデータを基に社会文化的側面、身体的側面および心理的側面から現代社会に内在する健康問題を掘り下げ、運動、食事、休養などによる健康の維持・増進に必要な科学的知識の理解と実践能力を習得することができるようになります。
授業計画	第１回：ガイダンス、社会と健康 総論 第２回：健康について考える 第３回：現代社会における健康問題 第４回：からだの健康と運動 第５回：心の健康と運動 第６回：食事と運動・スポーツ 第７回：休養と運動 第８回：肥満と健康 第９回：ヘルスプロモーションとは 第１０回：健康的な生活を獲得するためのプログラム 第１１回：社会アセスメント 第１２回：疫学アセスメントと行動・環境アセスメント 第１３回：教育・エコロジカルアセスメント 第１４回：運営・政策アセスメントとプログラムの実施運営 第１５回：まとめと試験
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業計画に従って、授業までに自分の考えをまとめてきてください。各々の意見や疑問について、授業の中で取り上げ論議します。 授業後学習：授業で学んだことを整理し、理解が足りなかった箇所について、次回の授業で質問と確認できるよう準備しておいてください。
授業方法	講義
評価基準と評価方法	試験：60%、レポート・平常点：20%、発表：20% 欠席回数が5回以上の者は、原則受験資格を失います。
教科書	使用しない。必要に応じ、適宜資料を配布します。
参考書	『実践 ヘルスプロモーション -PRECEDE-PROCEEDモデルによる企画と評価-』 ローレンス W. グリーン、マーシャル W. クロイター 著、神馬征峰 訳、医学書院、 ISBN 978-4-260-00171-7

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	食品衛生学						
担当教員	武智　多与理						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	食品衛生の基礎
授業の概要	食品の品質を損なうことの最大の原因が、微生物といっても過言ではない。安全性についていえば、食中毒病因物質の８５％以上が細菌である。本講義では、①食餌性病害の歴史と微生物②微生物の生育特性を逆用した保存法③細菌性食中毒の発症機構と細菌の種類④その他、食中毒病因物質および食中毒統計資料⑤マイコトキシンの種類と黴⑥食品添加物と安全性⑦バイオ食品の安全性⑧食品衛生法と関連法を学ぶ。
到達目標	食品衛生は、「食品の原料から製品まで、その安全性、有益性、健全性を如何に守るか」を意味する。概要に示した8つの領域について学ぶことで、食品の衛生に関する理解を深めることを目的とする。
授業計画	第１回　概論　食品衛生学とは 第２回　①食餌性病害の歴史と微生物 第３回　②微生物の生育特性を逆用した保存法　１、食品と微生物 第４回　②微生物の生育特性を逆用した保存法　２、食品の変質 第５回　②微生物の生育特性を逆用した保存法　３、保存法 第６回　③細菌性食中毒の発症機構と細菌の種類　１、細菌の種類 第７回　③細菌性食中毒の発症機構と細菌の種類　２、発症機構 第８回　④その他、食中毒病因物質および食中毒統計資料　３、ウイルス,原虫,寄生虫 第９回　④その他、食中毒病因物質および食中毒統計資料　４、自然毒 第１０回　④その他、食中毒病因物質および食中毒統計資料　５、有害物質 第１１回　⑤マイコトキシンの種類と黴 第１２回　⑥食品添加物と安全性 第１３回　⑦バイオ食品の安全性 第１４回　⑧食品衛生法と関連法規 第１５回　まとめと試験
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前：授業計画に従って、教科書の該当する箇所を読んでおく。 授業後：学んだことを復習し、要点をまとめておく。
授業方法	講義
評価基準と評価方法	筆記試験（８０％）と小レポート（２０％）で評価する。
教科書	簡明　食品衛生学 著 菅家祐輔編（光生館）
参考書	

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	食品学実験						
担当教員	武智　多与理						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜4～5	配当学年	3	単位数	1.0

授業のテーマ	加工食品の製造と理解
授業の概要	加工食品は、食品素材の保存あるいは栄養性や嗜好性の改善などを目的として作られてきたものであるが、最近の加工技術の進歩には、目覚しいものがある。本実習では、実際の加工操作を通して、原材料の種類や量などを実感し、それぞれの工程を具体的に把握する。 また、実際に加工したものと市販品との違いなどから、現在の加工技術の進歩や食品添加物の現状などについて考える。以上のことを実践するために、穀類、豆類、イモ類、果実・野菜類、畜産物などの加工品について、それぞれ例をあげ実習・実験を行う。
到達目標	加工食品を実際に製造することにより加工技術を習得する、さらに、市販品との違いから、加工技術の進歩や食品添加物の現状などについて考察することにより、加工食品に対する観察力や科学的思考力を養う。
授業計画	第１回　実習における緒注意、実習の内容説明 第２回　豆類の加工：味噌の仕込み 　　果実、野菜類の加工：ジャムの準備（実験計画） 第３回　畜産物の加工：アイスクリーム、チーズ 第４回　穀類の加工：グルテンの分離、麩（焼き麩、生麩） 第５回　穀類の加工：うどん 第６回　野菜、果実の加工：ジャム（瓶詰め、缶詰の実際） 第７回　穀類の加工：パン（発酵パン），畜産物の加工：バター、マヨネーズ 第８回　野菜類の加工：漬物（ピクルス） 第９回　野菜類の加工：トマトケチャップ，くん煙方法について 第１０回　果物類の加工：みかんの缶詰 第１１回　イモ類の加工：コンニャク 第１２回　微生物利用の加工食品：発酵食品の顕微鏡観察。甘酒など 第１３回　穀類の加工：団子、餅 第１４回　豆類の加工：味噌の塩分定量 第１５回　豆類の加工：味噌の塩分定量，実習のまとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前：授業計画に従って、教科書の該当する箇所を読んでおくこと 授業後：実習実施後は、各回レポートの提出を求める。
授業方法	実習
評価基準と評価方法	平常点（受講態度等）３０％　＋　レポート　７０％　により評価する。
教科書	食品加工学実験書 著 森　孝夫編著(化学同人)
参考書	

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	食品学総論						
担当教員	橘　ゆかり						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	食品の科学的な性質を総合的に理解する。
授業の概要	食品がいかに栄養豊富であっても、食べられなくては役に立たない。したがって、食べ物は「美味しさ」が重要な要素といえる。「美味しさ」は単に味だけの問題でなく、色や香り、そして触覚（手触り歯触り等）が重要な因子である。さらには食環境も含めて、脳が総合的に判断することである。本講では最初に「美味しさ」に関係する因子とその重要性、次いで食べ物の原料である食品の二次機能、即ち色・味・香について主に化学的側面から論じる。そして触覚に関係する物性についても述べる。
到達目標	食品成分の科学的性質を理解し、食品の科学的な特徴が説明できる。
授業計画	第１回　食品の分類 第２回　食品の栄養素と水 第３回　食品の成分と特徴：炭水化物 第４回　食品の成分と特徴：脂質 第５回　食品の成分と特徴：たんぱく質 第６回　食品の成分と特徴：ビタミンと無機質 第７回　食品の嗜好成分：色・味・香 第８回　食品の成分間反応 第９回　食品の物性 第10回　食品の科学的特徴：植物性食品① 第11回　食品の科学的特徴：植物性食品② 第12回　食品の科学的特徴：動物性食品① 第13回　食品の科学的特徴：動物的食品② 第14回　調味料と嗜好飲料 第15回　まとめと試験
授業外における学習（準備学習の内容）	授業内容の予習および復習
授業方法	講義
評価基準と評価方法	定期試験60%、小テスト・レポート25%、平常点15%
教科書	新ビジュアル食品成分表　新訂版 大修館書店
参考書	

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	食品の流通論						
担当教員	青谷　実知代						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	食料消費の成熟段階における食料（食品）の生産・流通・消費を総合的に把握することを目的とする。
授業の概要	世界的にフードシステムが変化している。その要因は、所得の上昇や家族生活の変化、供給側の対応などが考えられている。情報・技術の発達によりますますこの傾向は強くなるが、ここでは食生活の外部化に依存している家族の食生活の変化・実態や提供側である小売業の実態と変化、さらに生鮮食品を扱う様々な分野ごとの流通と消費実態を考察した上で、フードマーケティングの視点から今日の食料（食品）問題と流通のシステムの変化について考えていく。
到達目標	生さんから消費までの総合的理解を目標とする。
授業計画	第１回目　消費者の変化と食生活 第２回目　食品流通と食品市場①　－食品小売業とスーパーマーケット－ 第３回目　食品流通と食品市場②　－外食産業とコンビニエンスストアー 第４回目　ＰＢとＮＢ 第５回目　食品流通と食品市場③　－卸売市場－ 第６回目　食品流通と食品市場④　－食品卸売市場－ 第７回目　食品流通と食品市場⑤　－生協の共同購入－ 第８回目　鮮魚のフードシステム 第９回目　食肉のフードシステム 第10回目　野菜・果物のフードシステム 第11回目　加工食品の流通と消費（学外実習） 第12回目　清涼飲料・輸入食品の流通と消費 第13回目　食品消費と環境問題 第14回目　消費スタイルと流通技術 第15回目　今日の食問題・期末試験
授業外における学習（準備学習の内容）	新聞を必ず読むこと（特に食品問題等）
授業方法	講義
評価基準と評価方法	期末試験50%、レポート30%、発表20%
教科書	日本フードスペシャリスト協会編『食品の消費と流通―フードマーケティングの視点から―』建帛社、2000年。
参考書	石原武政・竹村正明『1からの流通論』碩学舎

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	色彩学						
担当教員	徳山　孝子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	色彩学の基本的知識を修得する。
授業の概要	本稿は、色彩学の基本的知識を修得することを目的としている。色彩の基本的な理論を修得するだけでなく、コンピュータ実習を取り入れながら、体験的に以下のような色彩の性質や構成について学習する。 　色とは何か、色と光、様々な色、色の伝達方法、色の混色、CGを用いた色の表現方法・色相環の作成、色相対比、色彩の錯視、色彩構成、色彩調和など。
到達目標	色の基本的な理論が理解できた。
授業計画	１．　色の性質 ２．　色と心理 ３．　色を表し、伝える方法（色の表示方法とその特徴） ４．　カラーオーダシステムによる方法（マンセルシステム） ５．　カラーオーダシステムによる方法（ＣＣＩＣ） ６．　カラーオーダシステムによる方法（ＰＣＣＳ） ７．　色彩調和の考え方①（明度差による配色） ８．　色彩調和の考え方②（彩度差による配色） ９．　主な色彩調和論と調和の原則 １０．　光から生まれる色および中間試験 １１．　色が見える仕組み １２．　色の測定 １３．　混色と色再現 １４．　色と文化 １５．　色彩計画および試験
授業外における学習（準備学習の内容）	授業内にて説明する。
授業方法	教科書に添って講義していくなかで、配色カードを用い色の確認をしながら進める。
評価基準と評価方法	定期試験80%、提出物20%
教科書	『カラーコーディネーションの基礎』東京商工会議所（中央経済社） プリントを配布する。 「新配色カード199ａ」　日本色研事業株式会社
参考書	西恭子・秋元未奈子共著『よくわかるカラーの本』（ファッション教育社）

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活科学I（衣）						
担当教員	市川　祥子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	衣服学入門
授業の概要	生活の中で衣服をどのように捉え、考えていくべきか、という視点に立ち、衣服に関する様々な知識を深める。本講義では、繊維製品としての衣服の科学的理解（被服材料学・被服整理学）をはじめ、社会・文化の影響を受けながら変化するリアルクローズとしての衣服（被服心理学）、また人の一生を通じた衣服のあり方を捉えながら（被服構成学）、人体の生理や健康と衣服との関係を考える（被服衛生学）、といった衣服に関する様々な学問の概観を学ぶ。また、ファッションビジネスや現代社会における衣服に関わる諸問題などについても講義する。
到達目標	衣服やファッション、繊維などに対する幅広い知識を深めると同時に、各自なりの考え（問題意識）を抱き、今後の勉学に活用する。また、衣服に対する科学的視点を養い、充実した衣生活を送れるようになる。
授業計画	第1回　衣服学とは 第2回　衣服の歴史―ヨーロッパと日本の衣服― 第3回　衣服と生活―風土・社会・文化と衣服の役割― 第4回　衣服の着衣動機―装飾・整容・変身行動― 第5回　衣服の素材・加工・性能 第6回　衣服の品質と管理―特性とメンテナンス― 第7回　衣服と人体の生理―快適性・機能性とデザイン― 第8回　衣服の着心地―装いと健康― 第9回　ライフスタイルと衣服―ライフサイクルとの関係― 第10回　衣生活と福祉―衣服とユニバーサルデザイン― 第11回　ファッションビジネスとマーケティング―企画と流通― 第12回　衣服の廃棄とリフォーム 第13回　衣服のリサイクルと環境保全 第14回　衣服の製造と消費に関わる諸問題 第15回　総括と試験
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：特に必要ないが、普段から衣服の品質表示を見て、繊維の種類に対する知識を深めたり、自分にとっての衣服とは何かなど、衣服について考える機会を積極的に持つこと。 授業後学習：講義の内容を各自整理し、疑問点は自ら調べるか、教員に質問するかして解決すること。
授業方法	講義
評価基準と評価方法	平常点　30%、レポート　30%、最終試験　40% 遅刻及び欠席は、平常点より減点する。
教科書	特に使用しない。必要に応じてレジュメ、資料を配付する。
参考書	岡田宣子（編著）『ビジュアル衣生活論』（建帛社）　ISBN978-4-7679-1445-9

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活科学II（食）						
担当教員	飯塚　勝						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	人の生活について衣・食・住の日本での歴史的発展を学習し、日常生活の中での食機能・食文化の役割を考える。
授業の概要	「食」については生きてゆくための基本的な行いで、食べる材料（食品）をもとにそれをいかに食べるかということでこれまでの人の長い歴史の中で地域や集団の中から文化（食文化）が形成されてきた。 まず、食品成分の５大栄養素（糖質、タンパク質、脂質、ビタミン、ミネラル）について生化学の基礎を学習し、食品の機能（栄養、味覚、生体の調節）、生体内の食物成分の代謝についての知識を習得し、活動的で健康な体を維持する方法について学ぶ。また、食品の色、味、香りなどの性質を活かした食品の加工、調理法や食べ方などを通じ人と人の交流がなされるので、食文化についても現状を分析し、これからの食がどうなされるべきかを考察する。
到達目標	人体の構成と食物の代謝によるエネルギー及び物質代謝について理解し、健康な生活を営む方法を考察する。
授業計画	第１回　　食とは？ 第２回　　食品の分類 第３回　　食品の成分　水 第４回　　炭水化物（糖質） 第５回　　食品の成分　タンパク質 第６回　　食品の成分　脂質 第７回　　食品の成分　ビタミン 第８回　　食品の成分　ミネラル 第９回　　食品の味・機能 第１０回　食品成分の変質１　炭水化物 第１１回　食品成分の変質２　アミノ酸・タンパク質 第１２回　食品成分の変質３　脂質 第１３回　食品の物性、色、香り、味 第１４回　食環境・食の安全 第１５回　食文化 第１６回　まとめと試験
授業外における学習（準備学習の内容）	食材や食品の調査・食の安全確保をいかにしたらよいかなどレポートとしてまとめ（報告）させる。
授業方法	講義
評価基準と評価方法	試験およびレポートによる。出席（受講）率も考慮する。
教科書	作成したテキストを配布する。
参考書	授業中に紹介する。

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活科学III（住）						
担当教員	増永　理彦						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	住居に関する基礎的知識の習得。
授業の概要	都市生活専攻学生の、衣食住の中で数少ない住分野の入門として、住居の基本概要を知る講義である。
到達目標	日本の住まいの特徴、住居の歴史、住居の間取り、現代の課題などの基礎項目について、自分の言葉で語れるようになること
授業計画	１．オリエンテーション、住まいの色々（スライド） ２．日本の住まいの特徴 ３．住居の歴史・・・中世まで（スライド） ４．住居の歴史・・・近代（スライド） ５．住居の歴史・・・現代（スライド） ６．これからの住居・・・スライド ７．間取りの特徴・・・公室、 ８．ＤＫの誕生（ビデオ）＋小テスト ９．間取の特徴・・私室、 １０．高齢者の住まい（元気な高齢者）・・・スライド １１．高齢者の住まい（要介護高齢者）・・・スライド １２．住宅の分類と選択 １３．戸建住宅と集合住宅 １４．高層居住・・・ＤＶＤ＋小テスト １５．これからの住まい・・・学生からの提案、レポート＋発表
授業外における学習（準備学習の内容）	住まいについては、生活の基礎であり、新聞でも家庭欄に限らず、社会面や経済面でもよく記事が書かれている。日々の新聞をよく読むことが大事（新聞取っていない学生は図書館にある）。あるいは、自分の住んでいる住まいの物的しくみや問題・改善点を積極的に考えること。
授業方法	・教科書を使用する以外に、プリント配布あるいはビデオ、スライドなどを活用する。 ・毎回、住居等に関する質問を受け付ける。次回にコメントをするなど、双方向の授業とする。
評価基準と評価方法	平常点：３０％、小テスト＋レポート７０％
教科書	・湯川聰子他　著　「新版　住居学入門」（学芸出版社） ｉｓｂｎ：９７８－４－７６１５－２２３７－７
参考書	・その他授業中に適宜紹介する

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活科学Ⅳ（ヒト）						
担当教員	武智　多与理						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	生物としてのヒトの理解（ヒトの中で起こっている化学変化）
授業の概要	この授業では、ヒトを生物の一種として捉え、通常の生活の中でヒトがどのようにして外界を認知し、働きかけているのかということを論じる。なかでも思考や言語などのいわゆる高次脳機能が生じる脳の機能を中心に話を進める。ヒトの体の中で、どのようなときにどのような化学変化が起こっているかということを知ることがこの授業の中心となる。
到達目標	最終的な目的として、新聞やテレビで見聞きするヒトに関する情報（遺伝子、脳、細胞）を理解し、自分の知識に基づいた情報の取捨選択ができるようになることである。
授業計画	第1回　概要説明 第2回　ホメオスタシス（血液・呼吸：01~03） 第3回　ホメオスタシス（血液・呼吸：09~12） 第4回　小テスト1と解説 第5回　食べること（消化と吸収：05~08） 第6回　食べること（消化と吸収：05~08） 第7回　小テスト2と解説 第8回　まとうこと（発汗・体温調節：13,23） 第9回　動くこと（筋肉・神経：14,15,18,21） 第10回　感じること（感覚器：16,22） 第11回　考えること（脳・神経：17,19,20） 第12回　成長すること（受精・発生：24~27） 第13回　小テスト3と解説 第14回　病気の仕組み（04,28~36） 第15回　まとめと期末テスト ＊内容は変更することがある。
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前：授業計画に従って、教科書の該当する箇所を読んでおく。 授業後：学んだことを復習し、要点をまとめておく。
授業方法	講義
評価基準と評価方法	授業態度10%、小テスト40%、期末テスト50%
教科書	「好きになる生理学」田中越郎　講談社
参考書	

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活科学V（健康科学）						
担当教員	馬場　恒子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	国と個人の健康を考える
授業の概要	生活の衣食住が物質的に満たされると、人間は生活の質を考える。その基本は心身の健康である。しかし、物質的に過飽和状態になり、社会が複雑化し、さらに高齢化すると健康でない人々の割合が増える。そこでまず、「健康」の概念を定義し、日常生活における健康維持増進の基本原則や健康阻害要因(酒、たばこなど)を医学・薬学の立場から概説する。また、健康を害した時の対応としてセルフケア、薬や医療の関わり方についても考える。
到達目標	①「健康」の概念を理解する ②日本の健康状態を知る ③自分の健康状態を知る ④自分(家族も含めて)の健康維持管理について考える
授業計画	第１回　Ⅰ健康の概念　Ⅱ健康の評価 第２回　Ⅲ健康維持要因　A.食生活 第３回　Ⅲ健康維持要因　B.運動 第４回　Ⅲ健康維持要因　C.休養・睡眠 第５回　Ⅳ健康阻害要因　A.ストレス B.疲労 第６回　Ⅳ健康阻害要因　C.飲酒 第７回　Ⅳ健康阻害要因　D.喫煙 第８回　Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳのまとめとテスト 第９回　Ⅴ後天性免疫不全症候群(エイズ) 第１０回　Ⅵ生活習慣病 A.生活習慣と健康　B.生活習慣病 第１１回　Ⅵ生活習慣病 C.メタボリックシンドローム　D.肥満と痩せ 第１２回　Ⅵ生活習慣病 E.生活習慣のチェック 第１３回　Ⅶ健康の維持・管理　A.自然治癒力(免疫) 第１４回　Ⅶ健康の維持・管理　B.くすり　C.医療との関わり方 第１５回　Ⅴ・Ⅵ・Ⅶのまとめ　テスト
授業外における学習（準備学習の内容）	復習：教科書がないので、その日の内にノートの整理をする。
授業方法	講義
評価基準と評価方法	１００点満点のテスト(２回)：８０％　５点満点の小テスト：２０％
教科書	教科書は使用しない。プリントを適宜配布する。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活学概論						
担当教員	中原　朝子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	生活学の基礎を学ぶ
授業の概要	人間の生活について、その変化のメカニズムや生活を捉える方法を、生活史や政策の変遷、各種統計データから学びます。具体的には、労働、家計、生活時間のあり方をジェンダーの視点から見ていきます。更に持続可能な社会の構築に向けて、個人・家族・国家の側面から考えていきます。
到達目標	自らが主体的・能動的に生活を運営していく基礎的な知識を得ることができます。
授業計画	１．生活経営とは ２．生活の単位について ３．労働について（１）労働実態の変遷 ４．労働について（２）女子労働の変遷 ５．労働について（３）労働政策の変遷 ６．家計について（１）家計収入・支出の構造 ７．家計について（２）アンペイド・ワークと家計 ８．家計について（３）世帯間格差・貧困化について ９．家計について（４）消費生活相談からみる生活問題について １０．生活時間（１）生活時間の構造 １１．生活時間（２）家庭生活の変遷 １２．生活保障政策について １３．グループ発表・ディスカッション １４．持続可能な社会に向けて １５．試験とまとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	授業後学習：授業の内容を整理する。また授業中にあげた参考文献等を読むことにより理解が深まります。理解できなかったことは、次の授業で質問してください。
授業方法	講義形式
評価基準と評価方法	授業の課題（４０％）、発表（１０％）、試験（５０％）による総合評価
教科書	
参考書	

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活行動I（衣行動）						
担当教員	牛田　好美						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	被服行動と人間のさまざまな関わりについて考えよう。
授業の概要	人が被服を着用することには、身体保護や生命維持、健康増進などの目的があるが、さらに、社会的、心理的な目的もある。たとえば、被服によって社会的地位を示したり、変身願望を満たしたり、外見的魅力を高めたり、周囲へ同調したりすることである。この授業では、こうした社会的・心理的効果をもつ被服行動について学習し、被服行動と人間のさまざまな関わりについて考える。
到達目標	被服の社会的・心理的機能を理解し、日常生活をよりよく営める能力を養う。
授業計画	第１回　被服への社会心理学的アプローチ 第２回　被服と自己意識（１）ボディ･イメージとは 第３回　被服と自己意識（２）社会で形成されるボディ･イメージ 第４回　被服と対人認知（１）印象形成 第５回　被服と対人認知（２）自己管理、自己呈示、役割理論 第６回　被服と非言語的コミュニケーション 第７回　被服と対人行動 第８回　被服と集団行動 第９回　被服とジェンダー 第10回　流行の普及と採用 第11回　個人発表（１） 第12回　個人発表（２） 第13回　個人発表（３） 第14回　前期授業の質疑応答 第15回　前期試験とまとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	普段から、新聞や雑誌などをよみ、社会情勢に敏感になっておいてください。
授業方法	主に、講義形式であるが、テーマに沿った個人発表もおこなう。 必要に応じて資料を配布する。
評価基準と評価方法	授業参加度（30%）、授業中の発表（20%）、レポート(20%)、試験（30%)により総合的に評価する。
教科書	21世紀の社会心理学シリーズ８　高木修（監修）　被服行動の社会心理学　神山進（編）北大路書房
参考書	

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活行動II（食行動）						
担当教員	鳥居　さくら						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	食行動の心理学
授業の概要	人が生きていくうえで欠かせない行動が食行動です。この授業では、離乳期、幼児期、児童期、青年期の各年代における食行動の特徴や問題点を解説し、食問題をテーマとした課題について議論していきます。
到達目標	各年代における食行動の心理学的な特徴や問題点について知ることができます。個人や社会における食問題を考えることができます。
授業計画	1.授業の概要 2.離乳期までの食行動(1)－母乳とミルク― 3.離乳期までの食行動(2)－母乳のでる仕組み― 4.離乳期までの食行動(3)－母乳の心理的側面― 5.幼児期の食行動(1)－味覚の発達― 6.幼児期の食行動(2)－食物嗜好と拒否の発達― 7.児童期の食行動(1)－特徴と問題点― 8.児童期の食行動(2)－食行動と身体の健康状態― 9.児童期の食行動(3)－食卓の絵からの考察― 10.青年期の食行動(1)－思春期の心と体の病気― 11.青年期の食行動(2)－摂食障害― 12.食問題をテーマにしたKJ法の活用(1)－テーマ設定― 13.食問題をテーマにしたKJ法の活用(2)－アイデア出し― 14.食問題をテーマにしたKJ法の活用(3)－発表― 15.まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：次回の授業の内容に関係する疑問を言語化しましょう。 授業後学習：実際の生活の中でどのように生かすことができるか、各授業の内容を自分にあてはめて考えてください。
授業方法	主に講義形式です。演習もおこないます。
評価基準と評価方法	授業態度(30%）、小レポート(30%)、試験レポート(40%)
教科書	
参考書	「人間行動学講座２　たべる―食行動の心理学―」　中島義明、今田純雄編　朝倉書店　1996　4800円 「母乳」　山本高治郎著　岩波新書　1983　490円 「未熟児」　山内逸郎著　岩波新書　1992　580円 「子どもと家族とまわりの世界（上）赤ちゃんはなぜなくの」　D・W・ウィニコット著　星和書店1985　1400円 「知っていますか　子どもたちの食卓　―食生活からからだと心が見える―」　足立己幸　NHK「子どもたちの食卓」プロジェクト　日本放送出版協会　2000　1500円

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活行動III（住行動）						
担当教員	西田　潔史						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	「人」と「住まい」との関わりについて考えます。
授業の概要	これからの住まいは、人それぞれの多様な生き方に適切に対応するものでなければなりません。それと同時に地域の歴史や風土との調和も大切なことです。 私達の求める快適な住空間とはどのようなものであるか、また、物としての住宅をより快適な人間生活の容器へと変容させるには何が必要か、そして我々がそこで「いかに住まうか」を考察します。
到達目標	「人」と「住まい」について様々な観点から考察することによって、人間の生活について広い視野で思考するための基礎をつくります。
授業計画	第 1回　いろいろな住まい 第 2回　住まいと家族 第 3回　インテリアデザイン 第 4回　住まいの安全1 第 5回　住まいの安全2 第 6回　住まいのメンテナンス 第 7回　住まいと健康1 第 8回　住まいと健康2 第 9回　住宅問題1 第10回　住宅問題2 第11回　住まいの歴史1 第12回　住まいの歴史2 第13回　住まいの歴史3 第14回　地域生活と住まい1 第15回　地域生活と住まい2
授業外における学習（準備学習の内容）	・受講のあり方 　自身の生活空間における経験を振り返りながら、講義やテキストの内容と照らし合わせ実践的に理解する。 ・予習のあり方 　テキストの「住まい15章」を熟読する。 ・復習のあり方 　講義内容について疑問点を整理し自ら調べる。残った疑問点については次回に質問する。
授業方法	講義
評価基準と評価方法	出席等授業態度（40%）、試験（60%）
教科書	「住まい15章」改訂版 住まい15章研究会編　学術図書出版社　ISBN：4873618126
参考書	

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活行動Ⅳ（消費行動）						
担当教員	待田　昌二						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	私たちはなぜ買い物をするのか
授業の概要	現代社会は大衆消費社会と位置付けることができる。生産・販売者側による消費者の欲望・欲求の掘り起こし・創造と、消費者が欲求を満たしてくれる商品やサービスを求めつづけることが現代の経済活動の中心である。そして、我々は買い物の無い生活など考えられないかのようである。しかし、人類の歴史を見ると買い物中心の生活はごく新しいものである。この授業の前半は、人類の歴史を振り返りながら買い物が人々の生活の中心になり大衆消費社会が成立していく経緯を学ぶ。後半では、そもそも欲望や欲求とは何であるのか心理学を中心に学んでいく。そして、なぜ私たちは買い物をするのか、買い物という行為の心理について考えていく。そして、最後に過剰な消費社会における欲求のコントロールについて考える。
到達目標	現代の消費社会について理解し、なぜ私たちが買い物をするのか心理面から分析できるようになること
授業計画	1. はじめに－私たちはなぜ買い物をするのか 2. 買い物の無い生活 3. 大衆消費社会の成立１：産業革命と生活の変化 4. 大衆消費社会の成立２：デパートの誕生 5. 大衆消費社会の成立３：娯楽としての買い物 6. 大衆消費社会の発展：デパートから総合ＳＣへ 7. 大衆消費社会における問題１：万引き 8. 大衆消費社会における問題２：万引きの心理 9. 欲求とは何か１：動因と基本的欲求 10. 欲求とは何か２：内発的動機と親和動機 11. 欲求とは何か３：達成動機と自己実現動機 12. 欲求の模倣 13. 欲求のコントロール１：買い物依存の心理 14. 欲求のコントロール２：大衆消費社会と欲求 15. なぜ欲求のままに行動してはだめなのか
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回の授業内容をレポートに結実させるよう復習し、身近な問題に結び付けて考える。
授業方法	講義
評価基準と評価方法	授業時に毎回提出する小課題50%とレポート（中間・期末）50%
教科書	使用しない
参考書	

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活行動V（健康心理学）						
担当教員	鳥居　さくら						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	健康心理学
授業の概要	日常生活や人生においてこころを健康に保てるよう、各領域での問題をとりあげていきます。具体的には、こころを心理学的にどのようにとらえるか、性格を測定できるのか、思春期、青年期、成人期、高齢期における心理学的課題、日常で起こるヒューマンエラーなどについて考えてみましょう。
到達目標	こころの測定法、性格の分類や問題、ライフサイクルにおける発達課題、心理的エラーなどについて理解できるようになります。
授業計画	1.授業の概要 2.こころは測定できるか 3.知能検査 4.性格の分類 5.性格の検査 6.性格に関する諸問題 7.思春期のこころの健康－心身の変化― 8.青年期のこころの健康－アイデンティティの確立、モラトリアム― 9.成人期のこころの健康－仕事・家庭― 10.高齢期のこころの健康－老いと死― 11.注意の錯覚 12.記憶の錯覚(1)－記憶のすりかえ― 13.記憶の錯覚(2)―目撃者の証言－ 14.原因の錯覚 15.まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：次回の授業の内容に関係する疑問を言語化しましょう。 授業後学習：実際の生活の中でどのように生かすことができるか、各授業の内容を自分にあてはめて考えてください。
授業方法	主に講義形式です。
評価基準と評価方法	授業態度(20%)、試験レポート(80%)
教科書	
参考書	

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活行動論						
担当教員	鳥居　さくら						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	化粧行動や化粧の効果に関する心理学的考察
授業の概要	化粧や化粧行動は、視覚、嗅覚、触覚、聴覚などの人の感覚あるいは心に影響を及ぼします。また、化粧をすることにより人と人との関係が変化していきます。化粧がいかにして人に心理学的な満足を与えるのか、また対人関係を促すか、について考えていきます。
到達目標	実生活に生かされる心理学の考え方、研究、可能性を理解できるようになります。
授業計画	1.オリエンテーション 2.化粧の歴史的な目的と意味 3.紫外線対策 4.肌の生理 5.社会と化粧(1)－対人魅力－ 6.社会と化粧 (2)－対人コミュニケーション－ 7.視覚と化粧(1)－顔における年齢・性別・魅力の印象－ 8.視覚と化粧(2)－表情の特徴、顔の加齢変化－ 9.触覚と化粧－マッサージとスキンケア－ 10.嗅覚と化粧－香りの鎮静覚醒作用－ 11.嗅覚と化粧－香りのストレスや睡眠に対する影響— 12.聴覚と化粧－容器の高級感— 13.心と化粧(1)－医療分野－ 14.心と化粧(2)－免疫－ 15.まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：次回の授業の内容に関係する化粧や化粧行動に関する疑問を言語化しましょう。 授業後学習：実際の生活の中でどのように生かすことができるか、各授業の内容を自分にあてはめて考えてください。
授業方法	主に講義形式です。
評価基準と評価方法	授業態度(10%) 、小レポート(30%)、試験レポート(60%)
教科書	
参考書	「化粧行動の社会心理学」シリーズ２１世紀の社会心理学　　北大路書房　高木修監修　大坊郁夫編

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活システムI（ライフライン）						
担当教員	出口　俊一						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	自然災害とライフライン（生命線）
授業の概要	都市生活は、ハード的側面とソフト的側面の複雑なシステムで構成されているため、災害時にはそれらを浮き立たせるという特徴があります。 17年前に発生した兵庫県南部地震（地震名）とその地震からの復旧・復興過程を通して、ハードとソフトの側面をみることによって、生活を成り立たせているシステムについての認識形成を目的とします。 1995年1月17日午前5時46分、ほんの一瞬大きな縦揺れが横揺れに変わり、そして、家財が飛び散り家屋が崩壊し、認定されているだけでも6434人が犠牲となった阪神・淡路大震災（震災名、略称：阪神大震災）。犠牲は免れたものの肉親や友人・知人を失った人びと、負傷をした人びと、目の前で血と汗の結晶ともいうべき財産を失った人びとなど、多くの人びとが言葉では言い表すことのできない恐ろしさと悲しさを体験させられました。 阪神大震災から17年以上の歳月が経った被災地の現実を踏まえ、復興過程を検証しつつ、自然災害とライフラインの関係を通して、災害への備えと復興のあり方について自らのなすべき課題を目標とします。 また、2011年3月11日午後2時46分に発生した東北地方太平洋沖地震（地震名）・東日本大震災（震災名）後の復旧・復興過程についても同時にみていくことにします。
到達目標	自然災害とライフラインの関係を認識するとともに、災害への備えと復興のあり方について自らのなすべき課題を把握できるようになること。
授業計画	１．自然災害とライフライン ２．二つの大震災の記録を通して考える（Ⅰ） ３．二つの大震災の記録を通して考える（Ⅱ） ４．災害救助の仕組み（Ⅰ） ５．災害救助の仕組み（Ⅱ） ６．災害救助の仕組み（Ⅲ） ７．生活・住宅再建の過程（Ⅰ） ８．生活・住宅再建の過程（Ⅱ） ９．生活・住宅再建の過程（Ⅲ） 10．生活・住宅再建の過程（Ⅳ） 11．まちづくりと復興都市計画（Ⅰ） 12．まちづくりと復興都市計画（Ⅱ）－フィールドワーク 13．産業・雇用 14．復興財政 15．試験
授業外における学習（準備学習の内容）	１．予習：授業計画に従って、授業までに教科書の該当する箇所を読んでおくようにします。 ２．復習：学んだことをもう一度簡単に整理し、要点をまとめておくようにします。
授業方法	１．教科書を使用するとともに、関連資料を配布し、テーマに関する興味・関心をもてるように、講義形式で進めます。 ２．テーマに関する参考文献を紹介し、図書館を活用した読書を薦めます。 ３．新聞を毎日読み、必要と思われる記事を切り抜くように薦めます。
評価基準と評価方法	評価は、授業への参加と試験で行います。
教科書	『「災害救助法」徹底活用』（出口俊一ほか、クリエイツかもがわ、ISBN978-4-86342-076-2 C0036）
参考書	『大震災100の教訓』（塩崎賢明、西川榮一、出口俊一、クリエイツかもがわ） 『大震災100の教訓・英語版』（塩崎賢明、西川榮一、出口俊一、クリエイツかもがわ） 『大震災10年と災害列島』（塩崎賢明、西川榮一、出口俊一、クリエイツかもがわ） 『災害復興ガイド』（塩崎賢明、西川榮一、出口俊一、クリエイツかもがわ） 『世界と日本の災害復興ガイド』（塩崎賢明、西川榮一、出口俊一、クリエイツかもがわ） 『大震災15年と復興の備え』（塩崎賢明、西川榮一、出口俊一、クリエイツかもがわ） 『災害復興とそのミッション』（片山善博ほか、クリエイツかもがわ） 『東日本大震災　復興への道』（塩崎賢明、西川榮一、出口俊一、クリエイツかもがわ） 『現代都市再開発の検証』（塩崎賢明、出口俊一ほか、日本経済評論社） 『神戸震災日記』（田中康夫、新潮社）

参考書	

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活システムII（流通・マーケティング）						
担当教員	青谷　実知代						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	大ヒット商品の誕生背景を取り上げながら、商品開発・流通システム・販売促進・価格そしてブランド育成・管理等、マーケティングの基礎的な考え方を学習する
授業の概要	私たちの身の回りにはモノがあふれている。高品質なモノや革新的なモノなど、日々たくさんのモノが登場している。では、これらのモノはどのように誕生したのだろうか。また、どのように魅力ある商品として、売り出されているのだろうか。大手メーカーの製品開発（ブランド開発）の背景には何があったのか、消費者の視点からマーケティングの具体的なケースを取り上げ、理論と組み合わせながらマーケティングの理解を深めることを目的とする。
到達目標	総合的なマーケティングの理解
授業計画	第１回　マーケティング志向の経営 第２回　マーケティングの基本的概念 第３回　製品開発のマネジメント 第４回　ブランド・マネジメント 第５回　ブランドの意味と意義―消費者の視点と企業の視点― 第６回　広告活動のマネジメント（ゲストスピーカー） 第７回　統合型コミュニケーションのマネジメント 第８回　営業のマネジメント 第９回　マーケティング・チャネルのマネジメント 第10回　ロジスティックのマネジメント 第11回　取引と価格のマネジメント 第12回　競争の分析① 第13回　競争の分析② 第14回　マーケティングリサーチ 第15回　マーケティングの企画と実践
授業外における学習（準備学習の内容）	流行のものや話題のものを常に把握しておく。 新聞必読
授業方法	講義
評価基準と評価方法	小テスト（20%）、レポート（20%）、期末試験（60%）よって総合的に判断する。
教科書	「１からのマーケティング」、石井淳蔵＋神戸マーケティングテキスト編集委員会著、碩学舎
参考書	随時紹介する。

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活システムIII（消費生活）						
担当教員	青谷　実知代						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	生活者の視点から考えた、モノと消費の関係
授業の概要	現代の私たちの消費生活は、生産された「モノ」に依存している。そして、近年極めて豊かで便利な「サービス」が受けられるようになった反面、欠陥商品、悪質商法などによるトラブルの多発、インターネットを介した電子商取引に関係した消費者被害も続出している。 講義では、現在の消費生活の実態を把握した後、発生したトラブルに対し消費者・行政・企業がどのように対処したかを明らかにし、安全で真に豊かな消費生活を確立するための楚としたい。
到達目標	消費の面だけでなく、社会問題・環境問題から幅広くモノと消費の問題を捉える。
授業計画	第1回　経済の発展と消費生活 第2回　消費生活の視点　－社会の変化と消費生活－ 第3回　現代資本主義と消費生活　－経済の動向と家庭生活－ 第4回　財・サービスの選択と意思決定　－広告と企業活動－ 第5回　多様化する流通・販売方法と消費者 第6回　生活情報の活用（ゲストスピーカー） 第7回　金銭管理と消費者信用 第8回　契約と消費者 第9回　消費者の権利と責任 第10回　消費者問題 第11回　消費者の保護と関係法規 第12回　消費行動と環境保全 第13回　環境問題の認識と解決 第14回　将来の消費社会と消費生活　－新しい消費者像－ 第15回　消費生活　－商品研究と事例研究－
授業外における学習（準備学習の内容）	常に新聞を見て情報を集めておくこと。
授業方法	講義
評価基準と評価方法	小テスト（20%）、レポート（20%）、期末試験（60%）などによる総合評価
教科書	プリント配布
参考書	随時、授業中に紹介する。

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活システムⅣ（生活と経済）						
担当教員	池田　清						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	日本社会は、世界的な金融・財政危機と大不況ねそして東日本大震災の影響で、派遣社員のみならず正社員までもがリストラされ。年収200万円未満の非正規社員が多数輩出している。その多くが女性と若者であり、このような社会問題の本質を考える。
授業の概要	現代の若者は、心を打ち明ける友や仲間がいず、ひとり孤独で悩んでいる人が多い。人と人とのつながりや絆がつくられる社会を展望する。
到達目標	現代社会で、ひとり一人が自立するうえで障害となっている問題を考え、生活し自立することの意味を考える
授業計画	第1回　授業のねらいと概要の説明 第2回　学生のアルバイトと学業 第3回　働く若者の現実 第4回　違法状態と労働法 第5回　使い捨ての労働 第6回　生きがいと格差 第7回　若者を取り巻く労働環境 第8回　深刻な若者の就労状況 第9回　若年雇用促進法の必要性 第10回 人間らしい生き方 第11回 スウエーデンモデルの検討（1） 第12回 スウエーデンモデルの検討（2） 第13回 デンマークモデルの検討 第14回 アメリカモデルの検討 第15回 まとめと試験
授業外における学習（準備学習の内容）	生活と経済に関する新聞やニュースに関心を持つ
授業方法	講義を中心にビデオなどを活用し具体的事例から学ぶ
評価基準と評価方法	試験70%、小テストかレホート30%、欠席の場合減点する
教科書	授業のときに指示する
参考書	

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活システムV（生活と法）						
担当教員	大内　伸哉						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	生活と関係する法律，特に労働法について学ぶ。
授業の概要	私たちの日常生活においては，さまざまな法律がルールを設定している。本授業では，その中でも，私たちのほとんどが避けて通れない「働く」ということに焦点をあてて，どのような法的ルールがあるのかについて学習することを目的とする。授業については，受講者の人数によるが，いま考えている方式は，事前に割当を決めて，教科書に記載されている一定のテーマについて教科書の内容をふまえて，自分でもインターネットや図書館を利用して発表するという形式である。授業は，報告内容をベースに，他の受講者にも発言を求めるという全員参加型である。ただし，受講者の数によっては，一方的な講義形式に変更することもある。
到達目標	労働法に関する基礎的な知識を身につけることである。
授業計画	各回において扱うテーマは次のものを予定している。 １　はじめに一法律は働く人の味方 ２　労働者って？－働く人の権利と労働基準法 ３　給料の額にはどういう決まりがあるの？－最低賃金制度 ４　給料のもらい方にもルールがあるの？－賃金の支払い方に関する原則 ５　もしも会社が突然倒産したら？－給料を守るセーフティ・ネット ６　働く時間のルールってどうなっているの？－労働時間・休憩の決まり ７　未成年者には特別なルールがあるの？－未成年者の保護 ８　仕事中にケガをしたらどうするの？－労災保険制度による補償 ９　職場での嫌がらせってどんなの？－「セクハラ」、「パワハラ」などの増加 10　会社を辞める時に罰金を要求されたら？－労働者の人権の保護 11　給料や仕事内容が事前の話と違ったら？－労働条件明示の義務 12　もしも突然給料を下げると言われたら？－労働条件の不利益変更 13　突如、転勤を命じられたら？—転勤をめぐる法的ルール 14　自分の会社の不正を知ったらどうする？－内部告発をめぐる取り扱い 15　働く女性のための特別なルールってあるの？－母性の保護 16　会社で不始末をしでかした時の処分は？－さまざまな懲戒処分 17　会社を辞める時、辞めさせる時って？－契約の解消をめぐって 18　派遣の働き方って、正社員とどう違うの？－人材派遣の仕組み 19　職場のトラブルはどこに相談すればいいの？－労働者の権利の実現 20　労働組合ってどういうもの？－労働者自身の手で権利を守る
授業外における学習（準備学習の内容）	特になし
授業方法	教科書の説明と小テストからなる。
評価基準と評価方法	小テストは４回実施する（教科書の持ち込みは可）。期末テストは実施しない。評価は，平常点と小テストの結果を，それぞれ50点で考慮して行う。
教科書	大内伸哉『君たちが働き始める前に知っておいてほしいこと（改訂版）』（労働調査会） 大内伸哉『就業規則からみた労働法（第3版）』（日本法令）
参考書	大内伸哉『雇用はなぜ壊れたのか』（ちくま新書）。 大内伸哉『雇用社会の25の疑問－労働法再入門－（第2版）』（弘文堂） 大内伸哉『どこまでやったらクビになるか』（新潮新書） 大内伸哉『キーワードからみた労働法』（日本法令）

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活情報処理実習						
担当教員	宇治　典貞						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	1.0

授業のテーマ	統計学入門
授業の概要	この授業は主に表計算ソフトを活用し，統計学の基礎を学びます. また，プレゼンテーションソフトを活用方法した演習も行います. 世の中には人口，売り上げ，地価など様々なデータがあり，私たちも実験やアンケート調査し，そこからデータを得ることがあります．この得られたデータから，意味ある事柄を得るためには，適切な処理をする必要があります. この授業では，データの処理方法を身に着けるために，統計学の基礎的な知識と表計算ソフトを活用するスキルを学びます. その後，統計的な処理を行ったデータをもとに考察を行い，その内容をプレゼンテーションします. 時間的な余裕があれば，検定にもふれたいと考えています.
到達目標	以下のものを習得することを目指します. ・表計算ソフトの操作技術 ・統計の基礎知識 ・表計算ソフトを用いた統計処理方法 ・プレゼンテーションソフトの操作技術 ・プレゼンテーションの基礎知識
授業計画	1　ガイダンス（講義） 2　データ処理の基本（講義と演習） 　・計算式，関数・表計算，グラフ作成 　・ソートなど” 3　度数分布と代表値１（講義と演習） 　・グラフ作成（度数分布，絵グラフなど） 　・代表値（平均，最頻値，中央値など） 4　度数分布と代表値２　　（講義と演習） 　・グラフ作成（2軸グラフ） 　・代表値（平均，最頻値，中央値など） 5　データ間の関係（講義と演習） 　・散布図，回帰直線 　・相関係数など 6　データの抽出とコード化（講義と演習） 　・条件による分岐，集計，抽出など 7　課題提出（演習と課題作成） 　・ここまでのまとめ 　・課題作成 8　調査の企画（講義） 　・統計調査について（調査目的，対象，方法など） 　・アンケート作成と調査 9　データの読み方（講義） 　・データの種類，尺度 　・質的データと量的データの違いと調査法 10　クロス集計１（講義と演習） 　・クロス集計 11　クロス集計２（講義と演習） 　・ピボットテーブル 　・オートフィルタ 12　課題提出（演習と課題作成） 　・ここまでのまとめ 　・課題作成 13　プレゼンテーションの基礎（演習） 　・ポスター作成 14　プレゼンテーション作成（演習） 15　プレゼンテーション（演習） 　・本番発表
授業外における学習（準備学習の内容）	毎時間，課題がありますので，次の時間までに課題を提出するようにしてください.
授業方法	主に演習を中心として行います.

評価基準と評価方法	表計算での課題：７０％ プレゼンでの実演：３０％ を基本とし，出席状況を加味して総合的に評価します
教科書	教科書は使用しません。 適宜，プリント等を配布します。
参考書	向後千春・冨永敦子　著 「統計学がわかる」 「統計学がわかる　回帰分析・因子分析編） 技術評論社

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活情報処理実習						
担当教員	宇治　典貞						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	1.0

授業のテーマ	統計学入門
授業の概要	この授業は主に表計算ソフトを活用し，統計学の基礎を学びます. また，プレゼンテーションソフトを活用方法した演習も行います. 世の中には人口，売り上げ，地価など様々なデータがあり，私たちも実験やアンケート調査し，そこからデータを得ることがあります．この得られたデータから，意味ある事柄を得るためには，適切な処理をする必要があります. この授業では，データの処理方法を身に着けるために，統計学の基礎的な知識と表計算ソフトを活用するスキルを学びます. その後，統計的な処理を行ったデータをもとに考察を行い，その内容をプレゼンテーションします. 時間的な余裕があれば，検定にもふれたいと考えています.
到達目標	以下のものを習得することを目指します. ・表計算ソフトの操作技術 ・統計の基礎知識 ・表計算ソフトを用いた統計処理方法 ・プレゼンテーションソフトの操作技術 ・プレゼンテーションの基礎知識
授業計画	1　ガイダンス（講義） 2　データ処理の基本（講義と演習） 　・計算式，関数・表計算，グラフ作成 　・ソートなど” 3　度数分布と代表値１（講義と演習） 　・グラフ作成（度数分布，絵グラフなど） 　・代表値（平均，最頻値，中央値など） 4　度数分布と代表値２　　（講義と演習） 　・グラフ作成（2軸グラフ） 　・代表値（平均，最頻値，中央値など） 5　データ間の関係（講義と演習） 　・散布図，回帰直線 　・相関係数など 6　データの抽出とコード化（講義と演習） 　・条件による分岐，集計，抽出など 7　課題提出（演習と課題作成） 　・ここまでのまとめ 　・課題作成 8　調査の企画（講義） 　・統計調査について（調査目的，対象，方法など） 　・アンケート作成と調査 9　データの読み方（講義） 　・データの種類，尺度 　・質的データと量的データの違いと調査法 10　クロス集計１（講義と演習） 　・クロス集計 11　クロス集計２（講義と演習） 　・ピボットテーブル 　・オートフィルタ 12　課題提出（演習と課題作成） 　・ここまでのまとめ 　・課題作成 13　プレゼンテーションの基礎（演習） 　・ポスター作成 14　プレゼンテーション作成（演習） 15　プレゼンテーション（演習） 　・本番発表
授業外における学習（準備学習の内容）	毎時間，課題がありますので，次の時間までに課題を提出するようにしてください.
授業方法	主に演習を中心として行います.

評価基準と評価方法	表計算での課題：７０％ プレゼンでの実演：３０％ を基本とし，出席状況を加味して総合的に評価します
教科書	教科書は使用しません。 適宜，プリント等を配布します。
参考書	向後千春・冨永敦子　著 「統計学がわかる」 「統計学がわかる　回帰分析・因子分析編） 技術評論社

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活統計学						
担当教員	青谷　実知代						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	生活に必要な統計データをまとめたり、分析したりするために必要な基礎的な統計学
授業の概要	実験や調査で収集したデータをまとめたり、分析したりするために必要な基礎的な統計学的知識の習得を目的としている。授業は、確率論の考え方の概説からはじめ、記述統計量の算出、度数分布表やクロス集計表の作成など、データ分析の考え方と実際に使えるスキルを身につける。データが飛び交う情報社会の中で、そのデータから意味のあることを見つけ出せるよう統計的検定の方法について解説する。
到達目標	実験や調査で得られたデータの基礎的な統計手法を習得する。
授業計画	１．統計データと尺度水準 ２．度数分布表とヒストグラム ３．代表値 ４．散布図 ５．データの標準化 ６．共分散と相関係数 ７．データの視覚的表現 ８．母集団と確立分布 ９．統計的推定の一般手順 １０．統計的検定の一般手順 １１．平均値の差の検定 １２．分割表の検定 １３．相関係数の検定 １４．ノンパラメトリック検定 １５．授業のまとめ、テスト
授業外における学習（準備学習の内容）	新聞や雑誌に掲載されたデータに慣れること。 復習をすること。
授業方法	講義
評価基準と評価方法	平常点２０％、小テスト２０％、期末テスト６０％
教科書	なし（プリント配布）
参考書	随時、紹介する

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活統計学						
担当教員	青谷　実知代						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	生活に必要な統計データをまとめたり、分析したりするために必要な基礎的な統計学
授業の概要	実験や調査で収集したデータをまとめたり、分析したりするために必要な基礎的な統計学的知識の習得を目的としている。授業は、確率論の考え方の概説からはじめ、記述統計量の算出、度数分布表やクロス集計表の作成など、データ分析の考え方と実際に使えるスキルを身につける。データが飛び交う情報社会の中で、そのデータから意味のあることを見つけ出せるよう統計的検定の方法について解説する。
到達目標	実験や調査で得られたデータの基礎的な統計手法を習得する。
授業計画	１．統計データと尺度水準 ２．度数分布表とヒストグラム ３．代表値 ４．散布図 ５．データの標準化 ６．共分散と相関係数 ７．データの視覚的表現 ８．母集団と確立分布 ９．統計的推定の一般手順 １０．統計的検定の一般手順 １１．平均値の差の検定 １２．分割表の検定 １３．相関係数の検定 １４．ノンパラメトリック検定 １５．授業のまとめ、テスト
授業外における学習（準備学習の内容）	新聞や雑誌に掲載されたデータに慣れること。
授業方法	講義
評価基準と評価方法	平常点２０％、小テスト２０％、期末テスト６０％
教科書	なし（プリント配布）
参考書	随時、紹介する

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活と仕事						
担当教員	福田　よしみ						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	キャリア発達形成および女性からみたキャリア
授業の概要	私たちが生活を営むうえで、仕事は重要な位置を占めています。本授業では、各自が充実した生き方を実践するために、生活の中で仕事といかなる関係を持つべきかを考えます。具体的には「生活と仕事」の概念をライフキャリア（生命・暮らし・人生）とワークキャリアの関係に拡大して考え、労働社会の現状理解と、今後の変化を予測しながら、各自が「自分らしい」と思える働き方と生き方の可能性を探ります。 キーワード：キャリア、生活経営、ライフサイクル、職業選択、キャリアプラン
到達目標	・「キャリア」という言葉に関する理論や実践を学び、それらを通じて自身のキャリア発達形成 ・「ワークライフバランス」の重要性や働くうえでの、権利や保障の理解 ・「学問・研究」と「就活」の統合
授業計画	授業計画 第1回　オリエンテーション　イントロダクション　キャリアとは 第2回　社会の変化と生活　生活経営における女性就労の意味 第3回　社会の変化と生活　女性就労の現状 第4回　ライフサイクルと仕事　ライフイベントと労働力率の変化 第5回　ライフサイクルと仕事　キャリア理論に学ぶ 第6回　職業選択とキャリア発達　自己概念　職業選択 第7回　職業選択とキャリア発達　キャリアの全体像 第8回　働く女性と家族関係　女性の就労と子ども 第9回　働く女性の家族関係　ワークライフバランス 第10回　企業で働くとは　企業の目的と組織、職種 第11回　就業環境の理解　働くときのルールと基礎知識 第12回　就業環境の理解　働くときの法律等の基礎知識 第13回　キャリアプランニング　社会人基礎力　FISH哲学　ビデオ 第14回　キャリアプランニング　人生設計を具体的にイメージ　レポート 第15回　キャリアプランニング　まとめ　振り返り
授業外における学習（準備学習の内容）	理論を学習しながら、自分自身で考え実践に結びつける授業を目指します。知識を吸収し覚えるというだけでなく、自ら考え学習する意義と楽しさを身に付けてください。
授業方法	講義が基本となりますが、グループワークや演習の要素を取り入れることも予定。
評価基準と評価方法	レポート提出30%＋毎講義時の振り返りシートの提出４０％＋講義への積極的参加と出席３０％ 授業では毎回コメントペーパーか振り返りシートを提出してもらいます。この提出をもって出席とします。
教科書	授業時にプリント配布します。
参考書	・「新版　女性のキャリアデザイン」　青島裕子著　　学文社 ・「キャリアの心理学」　渡辺三枝子著　　ナカニシヤ出版 ・「組織行動とキャリアの心理学入門」松山一紀　大学教育出版 ・「モチベーション入門」田尾雅夫　日経新聞社

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活の科学基礎I						
担当教員	稲垣　明						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	生活の中の化学
授業の概要	私たちは、衣食住すべての分野で、様々な物質を用いている。それらの物質の成分はなにか、どのような性質を持つかということに無理解では、物質を適切に合理的に用いることはできない。物質への理解を深める学問は化学である。この授業では、生活に関わりのある物質への理解を深めるための化学の基礎を学ぶ。
到達目標	・物質の基本的な構造を粒子的に理解できる。 ・化学反応の量的関係や様々な化学反応を理解できる。 ・物質の性質や反応を理解し、日常生活や社会における利用や役割を考えることができる。
授業計画	第１回　物質の成り立ち　原子の構造 第２回　化学結合と物質の性質 第３回　化学変化と化学反応式 第４回　化学反応の量的関係 第５回　いろいろな化学変化 第６回　反応熱　反応の速さ 第７回　物質の三態　溶液 第８回　酸と塩基　ｐH 第９回　コロイド溶液 第10回　有機化合物の特徴　炭化水素 第11回　炭化水素の構造 第12回　アルコール　有機酸 第13回　糖　油脂とセッケン 第14回　アミノ酸とタンパク質 第15回　高分子化合物
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：最低限、前時に学んだことを思い起こしておくこと。 授業後学習：授業外にする課題がだされた場合は、必ず次の授業までにしておくこと。
授業方法	講義
評価基準と評価方法	試験６０％程度、平常点（受講態度、小テスト等）４０％程度とし、総合的に評価する。
教科書	北原重登・塚本貞次・野中靖臣・水崎幸一著　『食を中心とした化学【第３版】』（東京教学社）　ISBN 978-4-8082-3044-9
参考書	立屋敷　哲著『ゼロからはじめる化学』丸善　ISBN978-4-621-08016-0 化学を自学自習することを考えて書かれている。読むには体力がいる。

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	生活の科学基礎II						
担当教員	武智　多与理						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	生物としてのヒトの理解（基本編）
授業の概要	我々の生活を理解するためには、我々自身の仕組み、つまり生物としての人間を知らなくてはならない。また、我々を取り巻く食や病気、環境を理解するときにも、微生物や動植物の構造についての知識が必要になる。この授業では、入学年度の前期に「生活の科学基礎Ｉ」と並行して、高校までに習った理科や生物の復習を行う。そして、人間を生物界の一員としてとらえ、細胞の構造と機能、からだの構造と機能、細胞増殖、生殖、遺伝などの生物としての基本を概説する。
到達目標	生物としての人間を知ることにより、我々の生活を理解することができる。本講義により、生物としてのヒトの基礎知識を身につけ、それを実生活に応用・展開していけるようになってほしい。
授業計画	第１回　生物学っておもしろい 第２回　こんなことも生物学 第３回　生物は細胞から始まる 第４回　進化していく生物① 第５回　進化していく生物② 第６回　生命を維持する体のはたらき 第７回　心と体はつながっている 第８回　遺伝子からタンパク質へ① 第９回　遺伝子からタンパク質へ② 第１０回　体はどうやってできるか① 第１１回　体はどうやってできるか② 第１２回　医療の現場で活躍する生物学① 第１３回　医療の現場で活躍する生物学② 第１４回　身の回りの環境に目を向けるエコロジー 第１５回　まとめ、期末試験
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前：授業計画に従って、教科書の該当する箇所を読んでおく。 授業後：学んだことを復習し、要点をまとめておく。
授業方法	講義
評価基準と評価方法	授業態度10%、小テスト40%、期末テスト50%
教科書	吉田邦久著「好きになる人間生物学」講談社サイエンティフィク発行
参考書	

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	卒業研究／Graduation　Thesis						
担当教員	青谷　実知代						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	木曜1	配当学年	4	単位数	8.0

授業のテーマ	今までに学んだ生活・消費に関する専門的知識から、主に企業のマーケティングや消費の仕方、ブランド展開等モノと人とのかかわりや仕組みについて取り上げ、自ら論文を作成する。
授業の概要	具体的には、それぞれの設定した問題ごとに、先行研究の検索、先行研究の紹介、課題の設定、調査による課題への取り組み、データ処理、プレゼンテーションなどを行いながら、卒業論文の作成を行う。この授業を通じて、自分自身で何かを解明していくことに対する喜びと動機づけを獲得することが目的である。 企業のマーケティング・マネジメントやブランド戦略、流通のしくみ、消費者のブランドイメージ、消費行動といった分野でテーマを見つけ（問題意識をもつこと）、自ら主体的に問題設定を行い、解決する糸口が見つけられるように取り組むことを目的とする。何事にも好奇心旺盛に取り組み、色々な事柄のなかから卒業研究のテーマが決まれば、その後卒業論文としての構成をどのように立てるのか具体的に考えていく。先行研究の検索、問題意識の明確化、テーマ設定の決定、調査方法論の決定、調査実施、データのまとめ、プレゼンテーションという流れを通して、卒業論文の完成を目指す。この過程では、主体性も大事であるが、協調性も大切になる。
到達目標	日頃から関心のあるテーマを自分で見つけ、調査をし、論文を作成する。
授業計画	第１回. 卒業研究とは何か。研究課題の探し方 第２回. 関心のある分野の領域 第３回. テーマ設定（原則） 第４回. 研究計画の立て方（論文構成と章構成） 第５回. 資料探しと文献検索の方法① 第６回. 資料探しと文献検索の方法② 第７回. 論文の書き方 第８回. 研究計画の発表① 第９回. 研究計画の発表② 第10回. 研究計画の発表③ 第11回. 研究計画の発表④ 第12回. テーマ決定後の進め方 第13回. 情報収集と先行研究のまとめ 第14回. 中間発表① 第15回. 中間発表② 第16回. 調査方法論の中間発表①（アンケート調査） 第17回. 調査方法論の中間発表②（インタビュー調査） 第18回. 調査方法論の中間発表③（フィールド調査） 第19回. 調査方法論の中間発表④（歴史資料調査） 第20回. 文献収集・先行研究批判 第21回. 文献収集とノート作り 第22回. 論文執筆（章立ての確認） 第23回. 引用文献、参考文献、図表などの資料添付の方法 第24回. 研究論文の発表① 第25回. 研究論文の発表② 第26回. 研究論文の発表③ 第27回. 研究結果と考察① 第28回. 研究結果と考察② 第29回. 卒論発表の仕方 第30回. 最終チェックとプレゼンテーションの準備
授業外における学習（準備学習の内容）	興味のあることを深く知るために、様々な情報を常に探しておきましょう。
授業方法	演習
評価基準と評価方法	プレゼンテーションや発表準備（20%）、論文作成過程における中間評価（20%）、卒業論文の内容（60%）など総合的に評価する。
教科書	特になし。必要に応じて紹介する。

参考書	各自テーマに併せて必要文献を紹介していく。

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	卒業研究／Graduation　Thesis						
担当教員	飯塚　勝						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	木曜2	配当学年	4	単位数	8.0

授業のテーマ	食品関連の課題のテーマを選び、実験により新たな発見を目指す。
授業の概要	食環境、食品の成分と機能、食物と健康などをめぐる課題からテーマ設定し、研究する。 卒業研究では、１－３学年で学んだ都市生活に関する専門知識を活用して、主に食品の成分や機能、安全性などについて自ら設定した問題について取り組む。具体的には、食品そのもの、食品の取り扱い、保存、流通過程での問題などについて、自ら設定した問題に取り組む。その際、専任教員のアドバイス、指導を受けながら調査や実験を続け、データ処理や実験結果について考察し、まとめたものをみんなの前でプレゼンテーションする。最終段階では卒業論文として完成させる。
到達目標	最終学年の１年を通じテーマに関係する研究を行い論文を作成する。 ３年次に習得した知識をもとに実験に必要な種々の技術を習得し、それらを使って設定したテーマの実験を行う。また、必要に応じて内外の関係した研究の論文を講読する。
授業計画	実験のやり方や供試サンプルの調達など指示する。 指導書として配布したものに従って授業を進める。 第１回　科学の方法と対象（物の見方、考え方） 第２回　私達を取り巻く環境、課題 （私達の置かれている周りの状況を理解し、改良したり、取り組んでみたい課題を考えて決める） 第３回　研究に必要な技術習得 物質分離の方法　微生物の分離 培養（天然物からの菌の分離、培地の作成、オートクレーブ、植菌、温度管理による培養） 第４回　生育微生物（カビ、酵母、バクテリア）の同定・分類 第５回　目的微生物を用いた液体あるいは固体培地での大量培養 第６回　生成酵素の分離 第７回　酵素の性質の検討 第８回　酵素の作用を用いた有用物の合成 第９回　生成物の分離ー濾過、遠心分離、溶媒等による沈殿分離 第１０回—第１１回　クロマトグラフィーによる分離 第１２回　分離した物質の分析・同定ーーー　糖質、タンパク質など 第１３回ー３０回　設定したテーマに向けての実験と得られた結果のまとめ卒業論文の作成・プレゼンテーション
授業外における学習（準備学習の内容）	関連文献を読むようにする。図書館で文献検索したり、教員の方から資料を渡す。
授業方法	講義および実験
評価基準と評価方法	研究の取り組み方、プレセンテーション、論文作成について評価する。
教科書	プリントを配布する。
参考書	授業の時に紹介する。

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	卒業研究／Graduation　Thesis						
担当教員	池田　清						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	木曜2	配当学年	4	単位数	8.0

授業のテーマ	大学4年間の集大成として卒論を位置づける
授業の概要	自分が関心や興味をもつテーマを自由に選択し、議論を通じゼミ生がお互いに学び合う
到達目標	文献検索や情報の収集、論理的思考力、問題発見能力を高める
授業計画	1.卒論研究のねらいと概要について説明する 2.学生の興味や関心について話し合う 3.情報収集、文献検索の方法 4.図書館利用の仕方 5.論文の書き方 6.先行研究の紹介 7.卒業研究の内容と進め方（1） 8.卒業研究の内容と進め方（2） 9.情報や文献などの収集 10.情報や文献などの収集 11.情報や文献などの収集 12.情報や文献などの収集 13.情報や文献などの収集 14.情報や文献などの収集 15.情報や文献などの収集 16.卒論の発表の仕方 17.卒論の発表の仕方 18.卒論の発表の仕方 19.卒論の発表の仕方 20.卒論の発表の仕方 21.論文作成 22.論文作成 23.論文作成 24.論文作成 25.論文作成 26.論文作成 27.論文作成 28.論文作成 29.ゼミでの発表 30.ゼミでの発表
授業外における学習（準備学習の内容）	新聞や雑誌、ニュースなど卒論研究に関する問題に関心を持つ
授業方法	演習 学生の興味、関心を尊重しつつ問題の核心をつく指導を行う
評価基準と評価方法	論文審査
教科書	
参考書	授業のなかで紹介する

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	卒業研究／Graduation　Thesis						
担当教員	打田　素之						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	木曜2	配当学年	4	単位数	8.0

授業のテーマ	現代社会を読む
授業の概要	各自の関心に応じて、現代日本の現象（メディア、ビジネス、政治、時事問題など）を取り上げ、データ処理、先行研究の検索、プレゼンテーションの仕方などを学びながら、仮説を設定し、その実証として卒業論文を作成する。
到達目標	時代を特徴づける出来事を自らの力で発見し、それを常識にとらわれずに、独自の視点から分析する能力の獲得を目指す。
授業計画	１．導入；授業計画の説明と相互紹介 ２．テーマ設定の仕方 ３．研究計画発表 ４．卒論の構想について ５．情報収集の仕方と図書館の利用方法 ６．公的資料の探し方 ７．論文の書き方指導 ８．発表例　１：メディア（少年マンガと少女マンガ） ９．発表例　２：経済と社会 10．発表例　３：現代日本社会 11．中間発表　１ 12．中間発表　２ 13．中間発表　３ 14．中間発表　４ 15．前期のまとめ ―――――――――――――――― 16．夏休みの作業報告 17．方法論　１：質問紙調査 18．方法論　２：インタビュー調査 19．方法論　３：ドキュメント調査 20．研究発表　１ 21．研究発表　２ 22．研究発表　３ 23．研究発表　４ 24．研究発表　５ 25．研究発表　６ 26．研究発表　７ 27．研究発表　８ 28．研究発表　９ 29．口頭発表の準備とその方法 30．卒論の最終チェック
授業外における学習（準備学習の内容）	毎日、新聞を読み、ニュース番組を見ること。
授業方法	演習
評価基準と評価方法	発表（10%）、平常点（10%）、卒業論文の内容（80%）
教科書	

参考書	「マンガの社会学」宮原浩二郎他、世界思想社、ISBN４－７９０７－０９０１－９　Ｃ００３６ 「マンガは越境する」大城房美他、世界思想社、ISBN９７８－４－７９０７－１４６１－３　Ｃ１０３６ 「恋愛遺伝子」山本大輔、光文社、ISBN４－３３４－９７３１６－７　Ｃ００９５ 「関係する女　所有する男」斉藤環、講談社現代新書、ISBN９７８－４－０６－２８８００８－４　Ｃ０２３６ 「日本の論点２０１２」文芸春秋編、ISBN９７８－４－１６－５０３１１０－９　Ｃ９４３０

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	卒業研究／Graduation　Thesis						
担当教員	古濱　裕樹						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	木曜1	配当学年	4	単位数	8.0

授業のテーマ	この科目では、１～３学年で学んだ都市生活に関する専門的知識の中から、主に衣領域に関する問題の中で、自らの関心に応じた問題設定で取り組む。
授業の概要	衣生活に関して、各自が設定した問題ごとに、先行研究の検索、先行研究の紹介、課題の設定、実験や調査などによる課題への取り組み、データ処理、プレゼンテーションなどを行う。これらの手続きの最終段階として、卒業論文の作成を行う。
到達目標	飽くなき追究を行うことで、各自の創造力や論理構成力、正しい現象を見極める判断力等を獲得する。
授業計画	第１回：卒業研究とは何か 第２回：文献について 第３回：これまでに行った研究のプレゼンテーション＜前編＞ 第４回：これまでに行った研究のプレゼンテーション＜前編＞ 第５回：過去の卒業研究の紹介 第６回：研究テーマの模索 第７回：研究テーマについての相談と決定 第８回：研究テーマの発表 第９回：研究手法の検討 第１０回：研究の実践 第１１回：研究の実践 第１２回：研究の実践 第１３回：研究進捗状況の確認 第１４回：後期に向けての課題の確認 第１５回：中間発表会の説明 第１６回：中間発表会＜前編＞ 第１７回：中間発表会＜中編＞ 第１８回：中間発表会＜後編＞ 第１９回：見出された課題の検討 第２０回：研究の実践 第２１回：研究の実践 第２２回：卒業論文執筆の方法 第２３回：研究結果の検証 第２４回：研究の補完 第２５回：卒業論文執筆状況の確認 第２６回：論文添削指導 第２７回：論文完成 第２８回：論文要旨添削指導 第２９回：卒業研究発表会準備 第３０回：卒業研究発表会リハーサル
授業外における学習（準備学習の内容）	授業時間以外でも着実に研究を進めていくことが必要となる
授業方法	演習
評価基準と評価方法	研究に対する取組姿勢(30%)、授業への参加度(10%)、卒業論文(40%)、研究発表(20%)
教科書	使用しない

参考書	随時紹介する

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	卒業研究／Graduation　Thesis						
担当教員	竹田　美知						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	木曜2	配当学年	4	単位数	8.0

授業のテーマ	１年から３年で学んだ都市生活に関する専門知識に立った上で、主に家族の関係や生活経営上の問題について、自ら問題を設定して取り組む。
授業の概要	それぞれの設定した問題ごとに、先行研究の検索、先行研究の紹介、課題の設定、仮説構成による課題への取り組み、データ処理、プレゼンテーションなどを行う。これらの手続きの最終段階として、卒業論文の作成を行う。
到達目標	この授業を通じて、自分自身で身近な生活の問題を解明していくことに対する喜びと動機付けを獲得することが目的である。
授業計画	1. 受講生の関心と領域 2. テーマの設定 3. 研究計画発表 4. 卒論の構想について 5. 情報収集、文献検索の方法 6. 図書館利用のコツ 7. 公的資料の探し方 8. 論文の書き方 9. 引用文献の書き方・注の書き方 10. 専門用語の定義について 11. 文章の点検と推敲 12. テーマの関する先行研究の紹介・発表 13. 各自の中間発表1（卒論の目次と資料調査のまとめ） 14. 各自の中間発表Ⅱ（卒論の目次と資料調査のまとめ） 15. 各自の中間発表Ⅲ（卒論の目次と資料調査のまとめ） 16. 研究方法についての確認（質問紙調査） 17. 研究方法についての確認（インタビュー調査） 18. 研究方法についての確認（ドキュメント調査） 19. 各自の研究方法1・研究状況中間発表１ 20. 各自の研究方法Ⅱ・研究状況中間発表２ 21. 各自の研究方法Ⅲ・研究状況中間発表３ 22. 研究成果と卒論の構成 23. 研究成果と図表の作り方 24. 研究成果と考察・結論 25. 卒論発表の仕方 26. 口頭発表の仕方 27. ポスター発表の仕方 28. 概要の書き方 29. 卒論の最終チェック 30. ゼミ内発表
授業外における学習（準備学習の内容）	資料収集、調査、フィールド・ワーク
授業方法	演習
評価基準と評価方法	プレゼンテーション（１０%）、授業における貢献度（5%）、卒業論文作成過程における中間評価（5%）、卒業論文の内容（80%）
教科書	

参考書	

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	卒業研究／Graduation　Thesis						
担当教員	鳥居　さくら						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	木曜1	配当学年	4	単位数	8.0

授業のテーマ	心理学的研究に関する卒論の作成
授業の概要	卒論に向けて、心理学の研究をおこないます。 自ら心理学の課題を設定し、先行研究を探索、紹介し、課題を設定したのち、課題解決のための方法を計画、実施し、データをまとめ、考察し、プレゼンテーションし、卒業論文としてまとめていきます。
到達目標	先行研究を発展させ、自ら心理学の実験・研究計画をたて、実行、発表していきます。
授業計画	1.ガイダンス 2.実験・調査の準備 3.実験・調査の準備 4.実験・調査の準備 5.実験・調査の準備 6.第１回報告会 7.実験・調査の実施 8.実験・調査の実施 9.実験・調査の実施 10.実験・調査の実施 11.実験・調査のまとめ 12.実験・調査のまとめ 13.実験・調査のまとめ 14.第２回報告会 15.第２回報告会 16.実験・調査の準備 17.実験・調査の準備 18.実験・調査の準備 19.実験・調査の準備 20.実験・調査の実施 21.実験・調査の実施 22.第３回報告会 23.実験・調査のまとめ 24.実験・調査のまとめ 25.実験・調査のまとめ 26.実験・調査のまとめ 27.実験・調査のまとめ 28.実験・調査のまとめ 29.第４回報告会 30.第４回報告会、講評
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：文献講読、実験や発表の準備をおこないましょう。 授業後学習：出された議論から、反省点をピックアップし、次の実験や発表に生かしましょう。
授業方法	実習形式
評価基準と評価方法	報告書や卒論(80%)、参加の取り組み(20%)
教科書	
参考書	

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	調査集計演習						
担当教員	青谷　実知代						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	定量ﾃﾞｰﾀや定性データ等の基礎的な資料が読めるようになり、平均値・分散・標準偏差等の記述統計の知識を使ってデータの作成・分析ができることを目標とする。
授業の概要	概要：　エクセルやＳＰＳＳなどの統計ソフトを利用して、単純集計、クロス集計、グラフ作成などを実際のデータを用いながら学ぶ。さらに変数と変数の相関係数とその検定や、因果関係と相関関係の区別、疑似相関が理解できるようにする。
到達目標	データの読み方、作成の仕方、分析方法の基礎的な力をつけること。
授業計画	１．　関連データの探し方 ２．　官公庁統計の集計・整理 ３．　フィールドワーク論文の読み方 ４．　エクセルの基礎　　エクセルデータのの入力 ５．　エクセルの基礎　　平均・分散・標準誤差 ６．　相関係数　　因果関係と相関関係 ７．　相関係数とその検定 ８．　クロス集計の基礎 ９．　クロス集計表の検定 10.　エクセルによるグラフの作成 11.　エクセルとワード 　　ワードによるレポート作成 12.　ＳＰＳＳによる統計分析　① 13.　ＳＰＳＳによる統計分析　② 14.　報告書の作成 15.　報告書の作成
授業外における学習（準備学習の内容）	予習・復習を必ずすること。
授業方法	演習
評価基準と評価方法	平常点２０％、小テスト２０％、期末テスト６０％
教科書	なし（授業中に資料を配布する）
参考書	授業中に紹介する

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	調査集計演習						
担当教員	青谷　実知代						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	定量ﾃﾞｰﾀや定性データ等の基礎的な資料が読めるようになり、平均値・分散・標準偏差等の記述統計の知識を使ってデータの作成・分析ができることを目標とする。
授業の概要	概要：　エクセルやＳＰＳＳなどの統計ソフトを利用して、単純集計、クロス集計、グラフ作成などを実際のデータを用いながら学ぶ。さらに変数と変数の相関係数とその検定や、因果関係と相関関係の区別、疑似相関が理解できるようにする。
到達目標	データの読み方、作成の仕方、分析方法の基礎的な力をつけること。
授業計画	１．　関連データの探し方 ２．　官公庁統計の集計・整理 ３．　フィールドワーク論文の読み方 ４．　エクセルの基礎　　エクセルデータのの入力 ５．　エクセルの基礎　　平均・分散・標準誤差 ６．　相関係数　　因果関係と相関関係 ７．　相関係数とその検定 ８．　クロス集計の基礎 ９．　クロス集計表の検定 10.　エクセルによるグラフの作成 11.　エクセルとワード 　　ワードによるレポート作成 12.　ＳＰＳＳによる統計分析　① 13.　ＳＰＳＳによる統計分析　② 14.　報告書の作成 15.　報告書の作成
授業外における学習（準備学習の内容）	予習・復習を必ずすること。
授業方法	演習
評価基準と評価方法	平常点２０％、小テスト２０％、期末テスト６０％
教科書	なし（授業中に資料を配布する）
参考書	授業中に紹介する

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	調理学						
担当教員	片平　理子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	食事作りの基本の理解
授業の概要	栄養素を含む食材を、安全で消化吸収しやすく、おいしい食物の形に変える過程を調理という。食物を組み合わせ、配膳により食卓を整えるが、食事は必要な栄養を充足させるだけでなく、心理的な満足にもつながるものでなくてはならない。調理学では調理の意義や役割を理解し、実践に結びつけるための科学的理論を学ぶ。すなわち、食べ物のおいしさとは何かを知り、食事設計の基本知識、食材の調理特性、調味・加熱等の調理操作法、調理器具、各食材の調理による栄養素・呈味成分・機能性成分・物性の変化について学ぶ。
到達目標	日常の食事作りの流れの理解 食材の基本的な性質と食材の性質を生かす調理方法の理解
授業計画	1.調理学の意義 2.食事計画論 3.調理と嗜好性 4.嗜好性の評価 5.調理操作論 6.食品の調理性（米・小麦・雑穀） 7.　〃　（いも類・豆類） 8.　〃　（食肉類・魚介類） 9.　〃　（卵類・乳類） 10.成分抽出素材の調理性（でんぷん・油脂） 11.　〃　（藻類抽出物・ゼラチン） 12.　〃　（分離タンパク質・食物繊維） 13.調理設備・器具・エネルギー論 14.調理文化論 15.まとめと試験
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業計画に従って、授業前に教科書の該当する箇所を読んできてください。その際、わからない語句や理解できない箇所をチェックし、自分で調べられる範囲で調べた上で授業に出席しましょう。 また、授業内容に関する自宅実習課題が出されますので、所定の様式でレポートにまとめて授業時間に提出してください。 授業後学習：授業で学んだ内容をもう一度簡単に整理し、理解しましょう。復習のために教科書を読み直し、授業内に理解できなかったことを抽出し、次の授業で質問して問題点を早めに解決することが大切です。 自分が何を理解できていて、何が理解できていないのか、毎授業後に確認する習慣をつけましょう。
授業方法	講義
評価基準と評価方法	平常点30%、レポート20%、期末テスト50%
教科書	三訂　調理学 下村道子・和田淑子　共編著 光生館 ISBN　978-4-332-05031-5
参考書	１．「新ビジュアル食品成分表　新訂版」大修館書店 ISBN　978-4-469-27002-0 ２．NEW　調理と理論 山崎清子・島田キミエ・渋川祥子・下村道子　共著　同文書院 ISBN　978-4-8103-1396-5

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	調理実習						
担当教員	片平　理子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜1～2	配当学年	2	単位数	1.0

授業のテーマ	実践による食事作りの理解
授業の概要	日常の日本料理を中心とした調理実習を通して、基礎的調理技術、食品の性質とその取り扱い方、食事作法など、食事に関する基礎的総合的能力を養う。具体的には、非加熱および加熱調理操作、調味操作などの基礎的調理操作を行う過程で起こる諸現象を観察することにより、調理の理論と技術との関連性を把握し、合理的な調理技能を習得する。食事計画から食卓構成を実習するプロセスで、食品の栄養的価値、安全で衛生的な取り扱い方、食卓の演出などを総合的に学ぶ。 実習はグループで行うが基礎技術は各自が習得することを目標とする。
到達目標	基本的な調理操作を身につける 各調理操作の目的、食事作り全体の流れを理解する
授業計画	1.包丁の使い方（野菜の切り方）・炒め方 2.白飯（ｐ37）・味噌汁（ｐ42）・キャベツ炒め（鮭缶） 3.白飯（冷凍）・すまし汁（ｐ37）・白身魚のおろし煮（ｐ38）・こかぶ即席漬け（ｐ51） 4.かやくごはん（ｐ46）・むらくも汁（ｐ54）・あじの姿焼き（ｐ41） 5.かやくごはん（冷凍）・わかめスープ（ｐ171）・肉じゃが（ｐ45）・ほうれん草お浸し（ｐ39） 6.ロールパン・コーンクリームスープ（ｐ94）・ハンバーグ（ｐ93）・にんじんのｸﾞﾗｯｾ、サヤインゲンのソテー 7.マカロニグラタン（ｐ89）・カスタードプディング（ｐ87）・コールスローサラダ（p102） 8.しそご飯（p50）・ミネストローネ（ｐ106）・じゃがいもコロッケ（プリント） 9.白飯・さつま汁（ｐ167）・だし巻き卵（ｐ41）・かぼちゃの含め煮（ｐ51） 10.白飯（冷凍）・茶碗蒸し（ｐ62）・天ぷら（ｐ61）・きゅうりの酢の物（ｐ43） 11.クリスマス料理：鶏肉カツレツ（ｐ118）・野菜スープ（p183）・スポンジケーキ（ｐ123） 12.正月料理：雑煮（ｐ73）・水引なます（ｐ77）・りんごきんとん（ｐ77）・田作り・松風羽子板（ｐ74） 13.五目炒めご飯（ｐ139）・卵のスープ（ｐ138）・ピーマンと牛肉の炒め物（ｐ137） 14.お菓子 15.まとめと実習試験
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：　1回目の授業で指示する様式で、授業計画に従って実習内容を予めレポート用紙にまとめて下さい。 授業後学習：授業で学んだ内容をもう一度確認しながら、レポート課題に取り組み、レポートを完成させてください。授業で行う実習とは別に、自宅で行う実習課題が出されますので、所定の様式で毎週提出して下さい。
授業方法	実習
評価基準と評価方法	平常点60%、レポート25%、テスト15%
教科書	あすの健康と調理 三輪里子監修 アイ・ケイコーポレーション ISBN　978-4-887492-222-4　C3077
参考書	

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	データ処理法I						
担当教員	青谷　実知代						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	多変量解析の基礎的な理論と分析手順について学ぶ
授業の概要	質問紙調査で得られたデータなどの分析によく利用される多変量解析法について、基礎的な考え方と各種分析法とその分析手順について学習する。特に、重回帰分析と因子分析について詳しくとりあげる。
到達目標	質問紙から得られたデータを、適切な手法で分析できる力を身につける。
授業計画	１．　多変量解析とは ２．　多変量解析を要約する ３．　データセットの作成方法 ４．　記述統計の算出方法 ５．　分散分析とは ６．　分散分析の適用方法 ７．　分散分析の実践 ８．　重回帰分析とは ９．　重回帰分析の適用方法 10.　重回帰分析の問題点 11.　重回帰分析の実践 12.　因子分析とは 13.　因子分析の適用方法 14.　因子分析の実践 15.　分析のまとめと試験
授業外における学習（準備学習の内容）	統計ソフトを使い慣れるように練習すること。
授業方法	講義・実習
評価基準と評価方法	小テスト（40%）、レポート（20%）、期末試験（40%）によって総合的に判断する
教科書	なし（授業中に資料を配布する）
参考書	岩井紀子・保田時男著「調査データ分析の基礎」有斐閣 その他、随時紹介

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	データ処理法II						
担当教員	佐々木　洋子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	質的調査の一連のプロセス（研究テーマ・調査課題の設定、データの収集・整理・分析、報告書の作成）を経験することを通じて、質的研究について学ぶ。
授業の概要	質的研究を行うための基礎的な事柄について学習する。とくにインタビュー調査について、データの収集・整理・分析のための練習を行い、最終的には、各自でデータを収集・整理・分析したレポートを作成してもらう。（受講者数によっては、多少内容を変更する可能性がある。）
到達目標	質的データの収集・整理・分析および公表に必要な基礎的な力を身につけ、実際に調査（インタビュー調査）を企画・実施することができるようになる。
授業計画	第１回　社会調査とは 第２回　質的研究概論 第３回　関連する研究の検討 第４回　質的研究の問い 第５回　調査企画の具体化 第６回　インタビュー調査の理論と方法 第７回　データの公表と調査倫理 第８回　データ収集・整理・分析の練習（1）文章を書く時の注意 第９回　データ収集・整理・分析の練習（2）説明の工夫 第10回　データ収集・整理・分析の練習（3）インタビュー実践 第11回　データ収集・整理・分析の練習（4）記録とデータ作成 第12回　データ収集・整理・分析の練習（5）分析 第13回　報告書作成作業（1）文章校正とは 第14回　報告書作成作業（2）レポート修正作業 第15回　報告書作成作業（3）報告書作成
授業外における学習（準備学習の内容）	質的調査に基づいて書かれた文献を読み、自身の調査企画・レポートの参考にすること。
授業方法	講義、実習
評価基準と評価方法	授業への参加状況、授業中の課題、最終レポートによって総合的に評価する。 （授業内課題30%、レポート提出30%、レポート評価40%）
教科書	なし（授業中に適宜資料を配付する）
参考書	藤井誠二, 2009『大学生からの「取材学」-他人とつながるコミュニケーション力の育て方』講談社　9784062725781 谷富夫・芦田徹郎編, 2009『よくわかる質的調査　技法編』ミネルヴァ書房　9784623052738 谷富夫・山本努編, 2010『よくわかる質的調査　プロセス編』ミネルヴァ書房　9784623058440 ほか、随時紹介

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	都市生活演習I						
担当教員	武智　多与理						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	4.0

授業のテーマ	生活科学（食）分野の研究計画の立案および実施。
授業の概要	４年次に食分野で卒業研究を行うために必要な食に関する幅広い知識の修得、実験計画の立て方、データの統計的処理方法などの修得を目指すものである。合わせて、興味ある分野（食に関する私たちを取り巻く環境と課題）について過去の研究レポートなどを調査する。調査する文献は論文の目的や方法を理解したうえで、結果をみて自分自身で考えたことと著者の考察と比べてみる。相違があれば、なぜなのかを考える。
到達目標	４年次に行う卒業研究のテーマを設定するために、興味のある分野についてテーマを絞る。そのテーマについて過去の研究レポートや文献などを調査し、自分の考えと著者の考察を比較し、分析・考察を繰り返すことで、卒業研究のテーマ設定・取り組み方を見つけられるようにする。
授業計画	通年の授業として卒業研究に必要とされる知識と実験技術を習得する（講義と実験）。 第1回　概要説明　進め方について 第2回　概要説明　どんなテーマを扱うかについて 第3回　糖質の科学　糖質についての説明（化学的側面，社会的背景） 第4回　糖質の科学　糖質についての実験（定性実験など） 第5回　糖質の科学　糖質についての市場調査 第6回　伝統野菜　伝統野菜についての説明 第7回　伝統野菜　野菜についての実験（ビタミンＣの定量） 第8回　伝統野菜　野菜についての実験（ビタミンＢ１の定量） 第9回　伝統野菜　まとめ 第10回　発酵食品　発酵食品についての説明 第11回　発酵食品　発酵食品についての実験（微生物のパワー） 第12回　発酵食品　発酵食品についての実験（発酵食品の製造１） 第13回　発酵食品　発酵食品についての実験（発酵食品の製造２と１の考察） 第14回　実験結果まとめ 第15回　まとめと成果発表 第16回　食育について　食育基本法の説明、社会的背景など 第17回　食育について　問題点・課題分析，考察 第18回　地元伝統産業についての考察 第19回　地元伝統産業についての考察　灘の酒1 第20回　地元伝統産業についての考察　灘の酒2 第21回　文献、研究レポート　購読 第22回　文献、研究レポート　購読、分析訓練 第23回　文献、研究レポート　購読、課題提案、解決策提唱 第24回　文献、研究レポート　検索，資料収集 第25回　文献、研究レポート　テーマ設定、個人別分析 第26回　文献、研究レポート　個人別分析作業1 第27回　文献、研究レポート　個人別分析作業2 第28回　テーマに関する個人別分析作業 第29回　討論 第30回　まとめ ＊内容は変更になることがある
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前：配布プリント（テキスト）の該当する箇所を読んでおく。 授業後：学んだことを復習し、要点をまとめておく。文献調査。
授業方法	講義と実験
評価基準と評価方法	課題（収集した資料について）に対する取り組み方、自ら行った考察などについて評価する
教科書	プリントしたテキストを配布。

参考書	

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	都市生活演習III						
担当教員	鳥居　さくら						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	木曜2	配当学年	3	単位数	4.0

授業のテーマ	心理学の中級実験と文献講読
授業の概要	心理学の中級実験をグループに分かれて実習形式でおこないます。 興味のある日本語の文献を選び、レジュメにまとめ、発表し、全員で議論する。さらにグループに分かれ、講読した文献の先行研究を参考に、実験や調査を計画・実施し、データをまとめ、発表し、議論します。
到達目標	先行研究を参考にして心理学の実験を計画、実行、発表できるようになります。
授業計画	1.ガイダンス 2.文献購読の仕方 3.文献購読 4.文献購読 5.文献購読 6.文献購読 7.実験・調査の計画 8.実験・調査の計画 9.実験・調査の準備 10.実験・調査の実施 11.実験・調査のまとめ 12.実験・調査のまとめ 13.発表 14.発表 15.発表 16.文献購読 17.文献購読 18.文献購読 19.文献購読 20.文献購読 21.実験・調査の計画 22.実験・調査の計画 23.実験・調査の準備 24.実験・調査の実施 25.実験・調査の実施 26.実験・調査のまとめ 27.実験・調査のまとめ 28.発表 29.発表 30.発表と講評
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：文献講読、実験や発表の準備をおこないましょう。 授業後学習：出された議論から、反省点をピックアップし、次の実験や発表に生かしましょう。
授業方法	実習形式
評価基準と評価方法	実習への取り組みの態度(20%)、報告書(80%)
教科書	

参考書	

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	都市生活演習Ⅳ						
担当教員	竹田　美知						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	金曜2	配当学年	3	単位数	4.0

授業のテーマ	社会における人間と人間の関係、人間とモノとの関係について、文献、観察、アンケートなどの様々な調査の企画から報告書の構成、さらにはそれを立証するためにふさわしい調査方法を計画し、その計画に応じて、資料収集、質問紙、調査票の作成を行う。
授業の概要	実際の調査によって得られたデータは、統計パッケージなどを用いなどを用いて解析し、仮説の検証を行い、最終的にその調査に基づいたレポートを作成する。全体を通して、社会生活の中での様々な問題を拾い上げ、それを実証するためのデータ作成の技術、方法を身につけることが目的である。テーマは、学生にとって身近な生活のテーマである「女子大入学から卒業後のライフコース」に焦点をあてる。現在の女子大生だけを対象とするのではなく、神戸松蔭開学からの資料をもとに、明治から平成にいたるまでの女子大教育の変遷が、女子大生のライフコースがどのように影響を与えたかについても取り上げる。
到達目標	この演習は、４年次に卒業研究を行うために必要な知識と技法を習得することを目的としている。
授業計画	1.質的調査とは何か 2.質的調査のデータ収集 3.質的調査と量的調査の関係 4.質的調査、特に内容分析について再度確認する。 5.図書館の利用方法 6.図書館の資料収集 7.明治から平成にいたる神戸松蔭の内容分析 8.現在の女子大教育の内容、女子大の意義などの内容分析 9.他の女子大の量的データ（アンケート調査）の分析Ⅰ 10.他の女子大の量的データ（アンケート調査）の分析Ⅱ 11.他の女子大の量的データ（アンケート調査）の分析Ⅲ 12.平成卒業生調査の２次分析 13.平成卒業生調査の２次分析 14.昭和卒業生調査票の作成 15.昭和卒業生調査票の作成 16.昭和卒業生調査の実施 17.エディング 18.アフターコーディング 19.データクリーニング 20.仮説の検証と分析 21.調査報告書の作成１ 22.調査報告書の作成２ 23.調査報告書の作成３ 24.平成卒業生調査との比較1 25.平成卒業生調査との比較２ 26.学生の報告書の発表１ 27.学生の報告書の発表２ 28.学生の報告書の発表３ 29.30.それぞれの視点からのグループごとに報告書をまとめる。
授業外における学習（準備学習の内容）	資料収集や調査票の作成
授業方法	演習
評価基準と評価方法	授業中の課題（40%）、レポート（60%）などによる総合評価
教科書	プリントを配布

参考書	

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	都市生活演習V						
担当教員	池田　清						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	4.0

授業のテーマ	まちづくりは、市民や企業、行政、そしてNPO、ボランティアが構成主体であるが、まちづくりの実践をフィールドワークし、これからの課題を発見する。
授業の概要	まちづくりに関するフイールドワークや新聞、雑誌などから都市生活に関する問題を探し、それらを分析しそこで得られた知見を実際の生活に生かす。
到達目標	この演習は、4年次に生活システム分野で卒業研究を行うために必要な知識と技法を修得することを目的とする。
授業計画	1.新聞や文献の理解 2.新聞や文献の理解 3.新聞や文献の理解 4.新聞や文献の理解 5.新聞や文献の理解 6.フィールドワーク 7.フィールドワーク 8.フィールドワーク 9.フィールドワーク 10.フィールドワーク 11フィールドワーク 12.フィールドワーク 13.フィールドワーク 14.フィールドワーク 15.フィールドワーク 16.レポート作成と発表 17.レポート作成と発表 18.レポート作成と発表 19.レポート作成と発表 20.レポート作成と発表 21.レポート作成と発表 22.レポート作成と発表 23.レポート作成と発表 24.レポート作成と発表 25.レポート作成と発表 26.まとめとレポート提出 27.まとめとレポート提出 28.まとめとレポート提出 29.まとめとレポート提出 30.まとめとレポート提出
授業外における学習（準備学習の内容）	都市生活に関する新聞やニュースなどに関心を持つ
授業方法	全員が議論に参加しお互いが学び合う

評価基準と評価方法	レポート50%、発表と報告50%、欠席は減点
教科書	授業で紹介する
参考書	

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	都市生活演習VI						
担当教員	青谷　実知代						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	火曜3	配当学年	3	単位数	4.0

授業のテーマ	商品開発を通して考えるブランド・マーケティングと消費者のイメージ
授業の概要	マーケティングにおける商品の企画・立案をするためには、調査は必要不可欠である。そのために、仮説構成、調査項目の設定、調査票の作成、分析、報告書まで社会調査・市場調査の一連のプロセスを経験させ、理解することを目的とし、さらに企画書作成、プレゼンテーションの方法についても学ぶ。 テーマは、地域ブランドについて取り上げる。例えば、神戸は山と海と坂道に囲まれた自然豊かな港町。洋菓子の発祥地であると共にファッション＝生活文化という基本的認識のあるハイカラでモダンな文化都市でもある。神戸で学び生活スタイルを築く女子大学生のブランドに抱くイメージに焦点をあて、消費行動へ与える影響についてファッションと食のカテゴリーからそれぞれ探っていく（2009年度実施内容）。2010年度は、他地域ブランドと関西ブランドの組み合わせから、新たなものを発見していくアイデアだしを中心に行った。このように、質的データから得られた情報の分析結果と量的データから得られた統計的分析結果との関連性・相違性を発見し、最終的にはマーケティング担当者や営業担当者などの実務家に、得られた結果をプレゼンテーションできるよう目指す。
到達目標	商品の企画・立案を通して社会人基礎力を身につける。
授業計画	第１回. 演習で取り上げるテーマ発表 第２回. マーケティングを実践することの意義 第３回. 調査目的の明確化① 第４回. 調査目的の明確化② 第５回. 調査枠組みの検討① 第６回. 調査枠組みの検討② 第７回. 質的調査を行うための仮設設定 第８回. 量的調査を行うための仮説設定 第９回. 調査票の素案作りとその方法 第10回. 調査票の作成・完成とプレテスト 第11回. インタビュー調査実施（テープおこし） 第12回. アンケート調査の実施（学内・学外にて） 第13回. 調査収集とまとめ 第14回. 調査結果についてのプレゼンテーション 第15回. 調査結果についてのプレゼンテーション 第16回. アイデアだしの方法 第17回. グループディスカッション 第18回. 商品開発の企画・立案の方法① 第19回. 商品開発の企画・立案の方法② 第20回. 企画書の書き方 第21回. 本調査実施① 第22回. 本調査実施② 第23回. 本調査分析（データ入力と集計、分析）① 第24回. 本調査分析（データ入力と集計、分析）② 第25回. 中間プレゼンテーション① 第26回. 中間プレゼンテーション② 第27回. 企画書作成 第28回. プレゼン準備と最終確認 第29回. 最終プレゼン発表① 第30回. 最終プレゼン発表②
授業外における学習（準備学習の内容）	人・モノ・情報・環境、全てにおいて常に観察力をもとう!!
授業方法	演習
評価基準と評価方法	アイデア出しやグループディスカッション（40%）、レポート・プレゼン発表などによる総合評価（60%）

教科書	随時紹介する。
参考書	随時紹介していく。

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	都市生活基礎演習						
担当教員	池田　清						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	この授業は、新聞を読むことを通じ、自ら考え学ぶ習慣を身につけることを目的とする。またフィールドワークで現場の大切さを学ぶ。
授業の概要	新聞や現場のフィールドワークを通じ皆で学び合う。
到達目標	この授業は、自分の可能性を発見し次のステップへの足がかりを得ることを目的とする。
授業計画	1.授業のねらいと概要の説明 2.新聞と社会 3.新聞の学ぶこと 4.文献検索と情報収集の方法 5.戦争（核）と原発問題 6.広島・長崎の被爆と原発事故被曝 7.現代文明と地球環境問題 8.現代の貧困と格差問題 9.現代の貧困と非正規雇用問題 10.フィールドワークの方法 11.ボランティアとまちづくり 12.NPO活動とまちづくり 13.NGO活動とまちづくり 14.各自のレポートと報告、討論 15.レポートの作成
授業外における学習（準備学習の内容）	新聞や雑誌、ニュースなど社会の動きに関心を持つ
授業方法	演習、学生の討論を重視する。
評価基準と評価方法	レポート50%、発表と報告50%
教科書	授業で紹介する
参考書	

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	都市生活論						
担当教員	池田　清						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	現代女性の自立と生活創造力
授業の概要	女性の生活創造力は、コミュニケーション能力と女性の歴史から学ぶことが必要で、具体的事例をあげて考える。
到達目標	自分の頭で考え行動し生活を創造する方法を身につける
授業計画	1.授業のねらいと概要の説明 2.人間発達とコミュニケーション能力 3.都市生活とコミュニケーション能力 4.日本の雇用システム 5.非正規雇用と都市生活 6.ワーキングプアとジェンダー 7.古代の女性の生活 8.中世の女性の生活 9.近世の女性の生活 10.明治期の女性の生活 11.大正期の女性の生活 12.戦後の女性の生活 13.資源・エネルギー問題と都市生活 14.資源・エネルギー問題と都市生活 15.まとめと試験
授業外における学習（準備学習の内容）	新聞や雑誌、ニュースなど社会の動向に関心を持つ
授業方法	講義を中心としてビデオなどを活用する
評価基準と評価方法	試験70%、小テストかレポート30%、正当な理由なき欠席は減点
教科書	授業のときに紹介する
参考書	

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	被服材料学						
担当教員	花田　美和子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	被服の材料である糸、布、その他の素材について学ぶ。
授業の概要	被服繊維学では多種多様な繊維材料について学んだ。本講義では、繊維から作られる糸や織物や編物の他、皮革や羽毛に至るさまざまなアパレル材料の特徴と、被服に要求される消費性能について解説する。
到達目標	被服材料の特徴を理解し、アパレル製品の消費性能に関する知識を習得する。
授業計画	第１回：糸 第２回：布　①織物 第３回：布　②織物 第４回：布　③編物 第５回：布　③レース、集合製品 第６回：皮革、羽毛 第７回：被服材料の加工 第８回：被服材料の消費性能　①布の構造特性 第９回：被服材料の消費性能　②熱、空気の移動特性 第１０回：被服材料の消費性能　③水分の移動特性 第１１回：被服材料の消費性能　④表面特性 第１２回：被服材料の消費性能　⑤力学特性 第１３回：被服材料の消費性能　⑥風合い 第１４回：繊維製品と表示 第１５回：総括と試験
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：テキストの該当箇所を読んでおくこと。 授業後学習：身近な被服材料に関心を持ち、授業で学んだ事柄を確認すること。
授業方法	講義、VTR、適宜演習を行う。
評価基準と評価方法	平常点（４０－６０％）、試験（４０－６０％） 遅刻、欠席は平常点より減点する。
教科書	『新稿　被服材料学－概説と実験』中島利誠（編著）、光生館　ISBN 4332100476
参考書	『衣服材料の科学』島崎恒蔵 編著　建帛社、ISBN 9784767910499

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	被服材料学実験						
担当教員	花田　美和子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜4～5	配当学年	3	単位数	1.0

授業のテーマ	繊維、糸、布の物理学的実験
授業の概要	被服に要求される性能はさまざまである。被服を構成する繊維、糸、布の物理的性質を学ぶことは、これらを解明する上で欠かせない。ここでは被服材料学で得た知識をもとに実験を行い、それらの方法を理解するとともに、得られた結果から試料の性能を評価する。
到達目標	繊維製品に対する試験方法を習得するとともに、被服材料の構造及び物理的性質と消費性能との関係を理解する。
授業計画	第１回：繊維の鑑別―顕微鏡による繊維の観察 第２回：繊維の鑑別―繊維の燃焼性と比重 第３回：繊維の鑑別―染色法、混用率測定 第４回：糸の太さと撚り① 第５回：糸の太さと撚り② 第６回：織物、編物の基本構造① 第７回：織物、編物の基本構造② 第８回：織物の水分率 第９回：布の吸水性 第１０回：布の防しわ性と剛軟性 第１１回：布の保温性、糸の引張強さ 第１２回：布の通気性と引き裂き強さ 第１３回：布のドレープ性と摩擦強さ 第１４回：布のピリング 第１５回：布の撥水性、まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：テキストの該当箇所を読み、実験内容を把握しておくこと。授業後学習：レポートを作成し、次回の授業時に提出すること。
授業方法	実験
評価基準と評価方法	平常点（４０－６０％）、レポート（４０－６０％） 遅刻、欠席は平常点より減点する。
教科書	プリントを配布する。
参考書	『被服材料実験書』石川欣造 著、同文書院　ISBN 9784810311044

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	被服整理学						
担当教員	牛田　智						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	洗濯で汚れを落とすこと、洗濯での色落ち
授業の概要	被服整理とは、使用途中の被服をきちんと整えるということで、そこには洗濯や漂白、手入れや保管といった行動が伴います。その場合、汚れをいかに落とすかということ以外にも、色落ちや色あせなく洗濯したり、衣類を保管したりすることも重要です。本授業では、被服整理学実験での実体験と連動させながら、洗浄や染色について、原理から学びます。
到達目標	被服の洗浄に関することと、それと密接な関係にある染色や漂白について、衣に関わる仕事に就いたときに活用できる専門的知識を身につけること、生活者として衣の管理を適切に行うために必要な知識を習得することを目標とします。
授業計画	第１回　はじめに（衣類の取扱いについて） 第２回　界面活性剤（洗剤に含まれている界面活性剤とはどんな物質なのか。） 第３回　界面活性剤（界面活性剤は、どのような作用を持つのか。） 第４回　セッケンについて 第５回　洗剤について（洗剤の成分、助剤の働き） 第６回　洗濯後の仕上げと保管、漂白・蛍光増白の原理と実際 第７回　水洗濯とドライクリーニング 第８回　色落ち・色あせ（染料について） 第９回　色落ち・色あせ（酸性染料などの染料で染まる原理） 第10回　色落ち・色あせ（直接染料などの合成染料の特徴） 第11回　色落ち・色あせ（反応染料などで変退色が起こる理由） 第12回　色落ち・色あせ（特殊な染色方法による染色物） 第13回　色落ち・色あせ（染色という現象について、堅ろう度） 第14回　衣類の着用、洗濯に伴うトラブル 第15回　まとめと試験
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：次回の授業内容の予告をもと身近な事例を想起しておいて下さい。被服整理学実験の受講者は、実験で行った内容の把握をしておいて下さい。 授業後学習：　学んだ原理・概念・考え方を、自分の言葉で文章化することを試みて下さい。
授業方法	講義
評価基準と評価方法	平常点（20%）、小テスト（20%）、最終試験（60%） 　遅刻、欠席は平常点より減点。3分の1以上の欠席で平常点はほぼなくなります。
教科書	プリント配布
参考書	

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	被服整理学実験						
担当教員	牛田　智						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜4～5	配当学年	2	単位数	1.0

授業のテーマ	洗濯で汚れを落とすこと、洗濯での色落ち
授業の概要	被服整理とは、使用途中の被服をきちんと整えるということで、そこには洗濯や漂白、手入れや保管といった行動が伴います。その場合、汚れをいかに落とすかということ以外にも、色落ちや色あせなく洗濯したり、衣類を保管したりすることも重要です。本授業では、被服整理学の講義と連動させながら、洗浄や染色についての実験を行います。
到達目標	被服の洗浄に関することと、それと密接な関係にある染色や漂白について、実験を通じて、その原理にまで踏み込んで、科学的な観点から深く理解することを目標とします。
授業計画	第１回　界面現象 第２回　界面活性剤の性質と作用 第３回　セッケンの製造 第４回　洗剤の成分と洗浄用水、洗浄試験 第５回　精練・漂白・増白 第６回　洗濯に伴うトラブル （水洗濯による収縮、ドライクリーニングの効果、苦情事例の再現） 第７回　西洋茜による染色 第８回　酸性染料による染色とその色 第９回　直接染料による染色と染色条件の検討 第10回　反応染料による三原色配合染色 第11回　分散染料による染色、ナフトール染料による染色 第12回　建て染め染料による染色 第13回　染色堅ろう度試験 第14回　苦情事例の原因推測 第15回　苦情事例の解明
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：配布プリントを読み、実験の大まかな手順を把握しておいて下さい。 授業後学習：実験したことを、レポートにまとめて下さい。
授業方法	個人またはグループによる実験。
評価基準と評価方法	平常点(出席してしっかり実験に取り組んだか)40%、レポート点60%
教科書	プリント配布
参考書	

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	被服繊維学						
担当教員	花田　美和子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	被服の材料である繊維について学ぶ。
授業の概要	私達が着用している被服は、どのような繊維から作られているのだろう。本講義では、綿や羊毛などの天然繊維の生産工程、化学繊維の原料や開発の歴史に触れながら、被服材料である繊維の種類と性質について学ぶ。また、さまざまな機能の付与した新しい繊維についても解説するとともに、生活環境と繊維の関わりについて考察する。
到達目標	被服を構成する繊維の種類と性質を理解し、目的に応じた繊維素材を選択できる知識を習得する。
授業計画	第１回：被服の材料、繊維について 第２回：天然繊維　植物繊維①綿 第３回：天然繊維　植物繊維②麻、他 第４回：天然繊維　動物繊維①絹 第５回：天然繊維　動物繊維②羊毛、獣毛 第６回：化学繊維　化学繊維とは何か 第７回：化学繊維　再生繊維、半合成繊維①レーヨン・キュプラ・アセテート 第８回：化学繊維　合成繊維①ナイロン、アクリル 第９回：化学繊維　合成繊維②ポリエステル 第１０回：化学繊維　合成繊維③ビニロン、ポリウレタン、他 第１１回：化学繊維　無機繊維①ガラス、炭素、金属繊維 第１２回：新しい繊維の開発　①感性と繊維 第１３回：新しい繊維の開発　②高機能繊維 第１４回：生活環境と繊維 第１５回：総括と試験
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：テキストの該当箇所を読んでおくこと。 授業後学習：自分自身の衣生活と授業内容を関連付けながら復習すること。
授業方法	講義、VTR
評価基準と評価方法	平常点（４０－６０％）、レポート（４０－６０％） 遅刻、欠席は平常点より減点する。
教科書	『新稿　被服材料学－概説と実験』中島利誠 編著、光生館、ISBN 4332100476
参考書	『生活のための被服材料学』日下部信幸 著、家政教育社、ISBN 9784760602773

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	フードコーディネート論						
担当教員	武智　多与理						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	食のコーディネートを多方面から理解する。
授業の概要	食のコーディネートには、これまで広く行われて来た経験に基づく技術とそれを科学的に裏付ける知識とが必要とされる。この講義では食を取り巻く様々な現象（食べ合わせ、メニュー構成、食卓、食育、食の安全など）について、現象論（実際の概要・問題）と理論（科学的な裏付け）の両方から迫る。
到達目標	この講義を受講し理解することにより、食が単なる栄養摂取の場であるだけでなく、楽しみの場、教育の場、コミュニケーションの場であることが理解できるようになるであろう。
授業計画	第1回　フードコーディネートとフードスペシャリスト 第2回　フードコーディネートの基本理念 第3回　現代の食事文化とその課題 第4回　メニュープランニング 第5回　テーブルウェアと食卓の演出 第6回　食卓のサービスとマナー 第7回　食空間のコーディネート 第8回　フードマネージメント 第9回　フードコーディネートの情報と企画 第10回　食環境とフードシステム、 第11回　フードコーディネートと食育 第12回　食育の現状と問題点 第13回　食におけるコミュニケーション 第14回　フードコーディネーターのあるべき姿 第15回　まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前：授業計画に従って、教科書の該当する箇所を読んでおく。 授業後：学んだことを復習し、要点をまとめておく。
授業方法	講義 場合によって実習等を取り入れることがある
評価基準と評価方法	授業態度10%、小テスト40%、期末テスト50%
教科書	（社）日本フードスペシャリスト協会編「新版フードコーディネート論第２版」
参考書	

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	フードスペシャリスト論						
担当教員	青谷　実知代						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	フードスペシャリストになるための幅広い食の知識を学ぼう。
授業の概要	消費者嗜好の多様化、それによる生活習慣病の増加、食品加工や保存管理など食流通への不安など食生活の見直しが幅広い領域で行われている今こそ、栄養士（管理栄養士）とは違う高度な食品・食物に関する専門知識を必要とする。将来、食教育の活動を推進できる専門的な食の知識を身につけることを目指す。 本講では、食品の開発検査、官能評価・鑑別、顧客に対する情報提供・販売促進、快適な食事コーディネート、食育活動など推進できる専門職の育成を目指す。
到達目標	フードスペシャリスト試験を目指すとともに幅広い専門の食知識を身につけることを目指す。
授業計画	第１回：フードスペシャリストとは 第２回：おいしさの追求 第３回：食生活の変遷 第４回：食の消費行動 第５回：食の消費現場とこれに対応する食産業 第６回：食品の品質規格 第７回：食べ物の安全性確保に関する法律 第８回：食品の鮮度と熟度、および鑑別検査の概要 第９回：食物の安全性 第10回：消費者保護 第11回：食の情報とその活用 第12回：現代の食卓の課題 第13回：食教育とは 第14回：人類と食環境 第15回：フードスペシャリストの役割と展望
授業外における学習（準備学習の内容）	食の情報を常に集めておくこと。
授業方法	講義
評価基準と評価方法	平常点２０％、小テスト２０％、期末テスト６０％
教科書	「フードスペシャリスト論」（社）日本フードスペシャリスト協会編、建帛社、1998年
参考書	随時、紹介する。

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	分析化学実験						
担当教員	武智　多与理						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜3～4	配当学年	3	単位数	1.0

授業のテーマ	食品成分に関する分析化学実験
授業の概要	われわれの生活環境は直接的・間接的にわれわれの健康に影響を与えている。そこで、この科目では、さまざまな分析機器を用いて生活環境を分析する方法について学び、実際に分析を経験する。たとえば、ガスクロマトグラフ質量分析計を用いて食品の成分や生活用品の香り成分を計測し、得られたデータを比較することにより、生活に不可欠な食品やにおいという要素をデータ化することが出来、自分たちの置かれた環境を客観的にみることができるようになる。
到達目標	自分たちの環境を知り、それを改善するにはどのようにしたら良いかということを考えることができるような能力を養うことが、この科目の目的である。
授業計画	第 1回: ガイダンス　分析化学の基礎 第 2回: 分析化学の基礎（講義）　試薬調製-電子天秤- 第 3回: 水溶液の性質　１　酸とアルカリ -pH メーター- 第 4回: 水溶液の性質　２　錯体キレート滴定 第 5回: 水溶液中の成分の定量　１ -分光光度計-　タンパク定量　１ 第 6回: 水溶液中の成分の定量　２ -分光光度計-　タンパク定量　２ 第 7回: 水溶液中の成分の定量　３ -分光光度計-　核酸の抽出と定量 第 8回: 混合物の分離　１ -電気泳動-　タンパクの電気泳動 第 9回: 混合物の分離　１ -電気泳動-　核酸の電気泳動 第10回: 混合物の分離　２ -クロマトグラフィー-　食品成分のクロマトグラフィー 第11回: 感応検査　パネル検査 第12回: 感応検査　三点比較式判定 第13回: 混合物の分離　３ -ガスクロマトグラフィー/質量分析（ＧＣ/ＭＳ）- 質量分析の基礎（講義）と食品成分の分析前処理 第14回: 混合物の分離　３ -ＧＣ/ＭＳ-　食品成分のＧＣ/ＭＳ 第15回: 混合物の分離　３ -ＧＣ/ＭＳ-　食品成分のＧＣ/ＭＳ結果発表
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前：授業計画に従って、教科書の該当する箇所を読んでおくこと 授業後：実習実施後は、各回レポートの提出を求める。
授業方法	実習
評価基準と評価方法	平常点（受講態度等）３０％　＋　レポート　７０％　により評価する。
教科書	各項目ごとにテキストを配布。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	生活学科専門教育科目（都市生活専攻）						
科目名	保育・看護学（実習を含む）						
担当教員	大塚　優子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	子ども理解と子育て
授業の概要	保育とは、乳幼児に対しその心身の健やかな成長、発達を促すための営みのことであり、その営みには医学・生物学的、教育学的、社会学的、文化論的理解が必要不可欠です。本授業では、子どもの成長、発達を多角的にとらえ学習していきます。また、やがては「育てる立場」の人間になることをふまえ、そのあり方も問うこととします。
到達目標	1. 乳幼児の成長、発達についての基礎的知識を学ぶ。 2. 子どもを育てるために求められる資質を身につける。
授業計画	第1回　保育の意味 第2回　母体の健康 第3回　子どもの発達　①身体発育 第4回　子どもの発達　②精神発達 第5回　子どもを育てる　①愛着と自律 第6回　子どもを育てる　②親のかかわり 第7回　子どもを育てる　③不適切なかかわり 第8回　子どもの育つ環境 ①子どもの生活 第9回　子どもの育つ環境 ②子どもの遊びと文化～おもちゃ 第10回　子どもの育つ環境 ③子どもの遊びと文化～絵本 第11回　子どもの育つ環境 ④子育て支援 第12回　子どもの育つ環境 ⑤集団保育 第13回　家庭における看護 ①病気と事故 第14回　家庭における看護 ②基本的な看護 第15回　まとめと試験
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：事前に次回の授業内容を告知しますので、教科書に目を通しておいてください。 授業後学習：学んだことを整理し、まとめておいてください。最終的にまとめたものを提出していただきます。 理解できなかったことは、次の授業で質問してください。
授業方法	講義を中心に進めますが、「おもちゃ作り」と「絵本の読み聞かせ」の実習も行う予定です。
評価基準と評価方法	試験50%、提出物（作品、レポートなど）50%
教科書	『新保育学　改訂5版』岡野雅子・松橋有子・熊澤幸子・武田京子・吉川はる奈著　南山堂 ISBN978-4-525-63005-8
参考書	